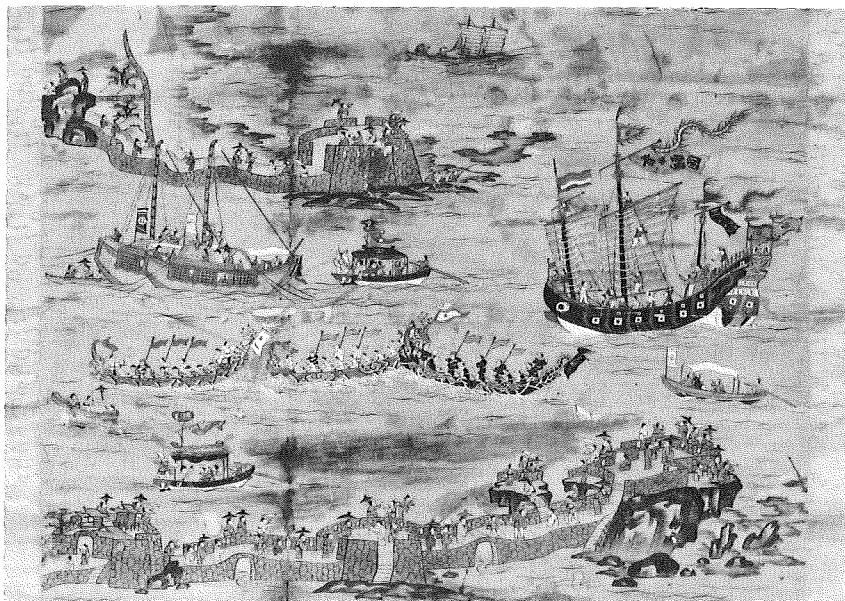


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 23



1990

沖縄県立博物館

序

平成元年度は次のような事業を行いました。

5月中旬から6月初旬にかけては、前年度に寄贈・購入・収集しました資料を公開する恒例の「新収蔵品展」を開催しました。

11月には、板橋区立美術館の協力を得て「岡田コレクション—インドネシア更紗展—」を平成2年1月から2月にかけては、国立民俗学博物館などの協力を得て「大アンデス文明展」と二つの特別展を開催し好評を得ました。

特に「大アンデス文明展」は、6万7千人余の入館者があり、近年にない大盛況の特別展となりました。

これらの特別展の他、企画展としては「真境名由康生誕100年記念—芸能資料展—」を開催しました。

また、当館が特に力を入れて毎年実施している移動博物館は13回目をかぞえ南大東村で開催しました。すっかり定着した博物館文化講座は第175回から第187回まで実施されました。

平成2年度は、「沖縄の野鳥展」「沖縄のまつり展」「技と美一大城志津子の世界一展」の三つの企画展を予定しております。

今後とも特別展や文化講座などの博物館活動を充実させて行きたいと思いますので、尚一層のご助言、ご協力を願い致します。

平成2年7月

沖縄県立博物館長 大城宗清

目 次

序	館長 大城宗清
I 概要		
1 沿革	1
2 施設・設備	3
3 予算	5
4 組織	6
II 入館者数		
1 入館者数	8
2 県内外児童生徒学生団体見学者	12
III 展示活動		
1 常設展	14
2 特別展	17
3 企画展	22
4 移動博物館	25
IV 教育普及活動		
1 博物館文化講座	29
2 博物館学習ノート	31
V 調査研究活動		
1 調査研究	32
2 著作論文	34
VI 収蔵資料		
1 収蔵資料現在高	37
2 平成元年度収蔵資料	37
3 平成元年度収蔵資料目録	38
4 所蔵国県指定文化財	40
VII 刊行物	41
VIII その他の活動		
1 資料貸出	42
2 煙蒸処理	42
3 沖縄県博物館協会	43
4 沖縄県立博物館友の会	44
IX 日誌抄	46
X 関係法規抄録	47

※表紙写真：「進貢船の図」

I 概 要

1 沿 革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年には「琉球政府立博物館」と改称。また、41年には現敷地に新館を建設して移転する。47年の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

〔主な事項〕

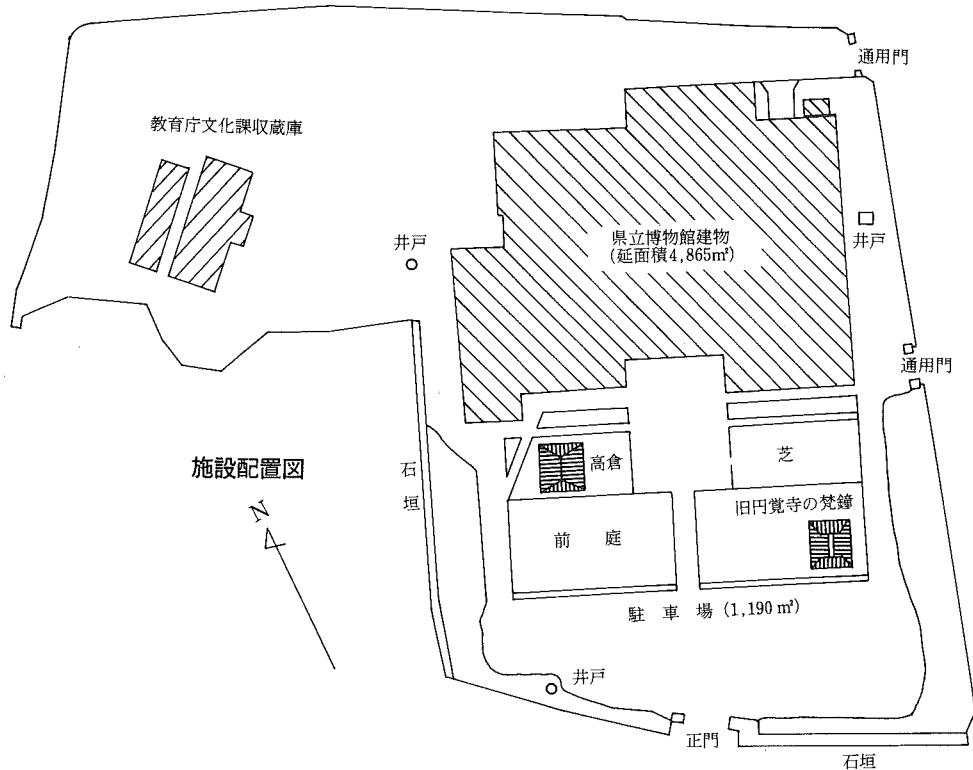
-
- | | |
|-------------|--|
| 昭和21年（1946） | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年（1947） | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年（1953） | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年（1955） | 9月、琉球政府発足にともない首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年（1965） | この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入する。 |
| 昭和41年（1966） | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年（1972） | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年（1973） | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年（1976） | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年（1980） | 1月、特別展「日本の美——救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち——大恐龍展」を開催。 |

- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美——日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年（1982） 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展——熊本の歴史と文化」を開催する。
- 昭和58年（1983） 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美——風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。
- 昭和60年（1985） 11月、特別展「グスク——グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて——大嶺薰コレクション」を開催する。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画——物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展——ある首里士族の400年」開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸——天野鉄夫コレクション」開催する。
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」開催する。
- 平成元年（1989） 11月、特別展「インドネシアの更紗展」を開催する。
- 平成2年（1990） 1月、特別展「大アンデス文明展」を開催する。

歴代館長

〔東恩納博物館〕 大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	〔首里博物館〕 豊平 良頭（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）
原田 貞吉（昭和28・3～30・5）	
山里 永吉（昭和30・8～33・8）〔琉球政府立博物館〕	
金城増太郎（昭和33・9～36・12）	
大城 知善（昭和37・2～44・11）	
外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕	
大城徳次郎（昭和56・4～58・3）	
大城 立裕（昭和58・4～61・3）	
大城 宗清（昭和61・4～）	

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積.....	11,267m ²
●建物のべ面積.....	4,865m ²
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積.....	1,590m ²
1階	632
2階	958
●ロビー面積.....	256m ²
●収蔵庫面積.....	677m ²
●駐車場面積.....	1,190m ²
●庭園面積.....	1,612m ²
●講堂.....	632m ²
客席数	630席(1階240)

●空調機機能力

ヒートポンプ式チーリングユニット
125,000kcal/h × 2機
エアハンドリングユニット 7機
パッケージ型エアコン
56,000kcal/h × 1機
28,000kcal/h × 1機
20,000kcal/h × 2機
8,400kcal/h × 1機

●変電室

電灯 1Φ 3W 30KVA × 1機
電灯・動力 3Φ 4W 100KVA × 1機
動力 3Φ 3W 250KVA × 1機

●契約電力.....235kw

建物平面図および室名・面積

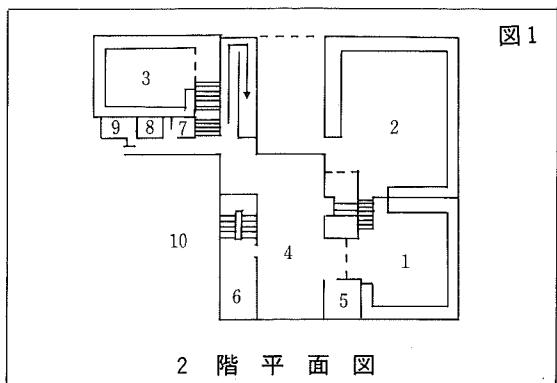


図1

2階平面図

<2階>
番号

	室名	面積
1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	ホール中2階	61

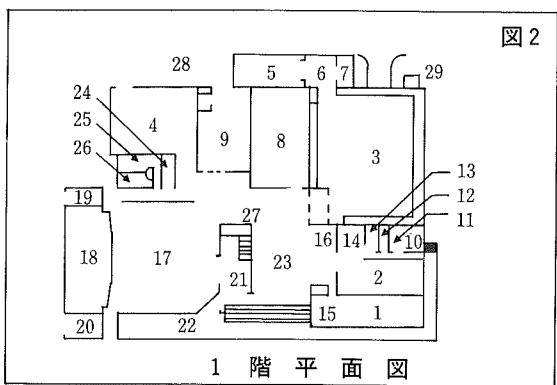


図2

1階平面図

<1階>
番号

	室名	面積
1	事務室	115m ²
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	首里城正殿模型	18
17	講堂(客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	案内コーナー・友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5

<地階>
番号

	室名	面積
1	収蔵庫	285m ²
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

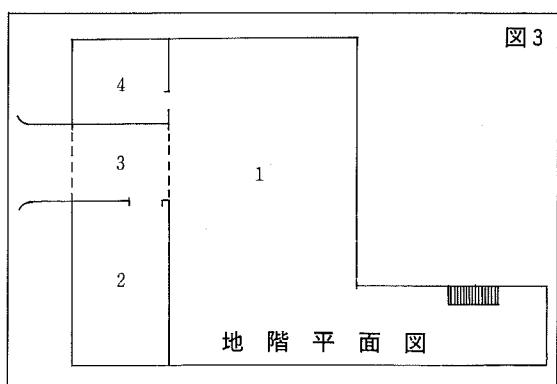


図3

地階平面図

3 予 算

平成元年度博物館費（決算）

単位：円

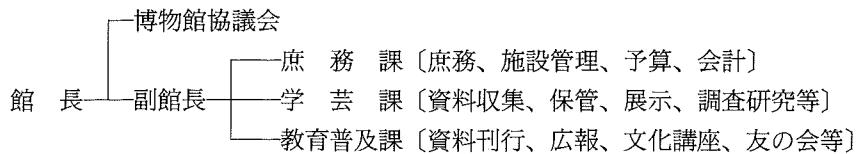
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	55,200	0	55,200
賃金	0	676,000	676,000
報償費	231,000	86,000	317,000
旅費	1,549,000	2,751,860	4,300,860
(普通旅費)	(1,549,000)	(2,325,460)	(3,874,460)
需要費	21,482,474	10,035,396	31,517,870
消耗品費	859,099	1,240,994	2,100,093
燃料費	48,379	0	48,379
(食料費)	(94,966)	(886,802)	(981,768)
印刷製本費	3,317,850	5,267,600	8,585,450
光熱水費	15,342,277	0	15,342,277
修繕費	1,819,903	2,640,000	4,459,903
役務費	1,214,391	4,026,000	5,240,391
通信運搬費	689,455	3,894,000	4,583,455
手数料	497,366	0	497,366
筆耕翻訳料	20,600	0	20,600
保険料	6,970	132,000	138,970
委託料	14,269,000	7,042,499	21,311,499
使用料及び賃借費	0	10,686,000	10,686,000
工事請負費	7,952,774	0	7,952,774
備品購入費	7,504,000	1,497,620	9,001,620
負担金補助及交付金	65,000	0	65,000
公課費	0	0	0
合計	54,322,839	36,801,375	91,124,214

平成元年度歳入状況（決算）

内訳 科目名	常設展	特別展
博物館使用料	10,576,200	28,863,110
建物使用料	52,080	0
雜入	85,187	0
小計	10,713,467	28,863,110
合計		39,576,577

4 組織

(1) 機構



(2) 職員構成

平成元年4月1日現在

職名	氏名	担当業務
館長	大城宗清	博物館業務の総理に関すること。
副館長	西平守勝	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課との調整に関すること。
庶務課長	大村光仁	庶務課の統轄。庶務、施設管理、予算、事業に関すること。
副主任	宣保光子	予算決算、会計事務に関すること。
主任	新崎文子	歳入、庶務、人事、福利厚生に関すること。
技師	名嘉真盛和	施設設備の保守管理に関すること。
学芸課長	知念勇	学芸業務の統轄及び考古資料及び沖博協に関すること。
充指導主事	千木良芳範	総合調査調整、写真撮影、沖博協及び自然史に関すること。
学芸員補	与那嶺一子	博物館資料の受入れ、整理分類及び工芸に関すること。
教育普及課長	当真嗣一	教育普及業務の統轄及び歴史資料に関すること。
充指導主事	上門清春	博物館学習、団体見学の調整及び自然史に関すること。
充指導主事	津波古聰	教育普及、移動博物館、写真撮影及び美術工芸に関すること。
専門員	大城学	教育普及、文化講座、講演会及び民俗に関すること。

非常勤職員 (委嘱業務)	氏名	担当業務
教育普及補助員	上原敏子	展示の解説。
監視	西平節子	受付及び監視に関すること。
〃	東美智子	〃 〃
〃	小橋川敏子	監視に関すること。
〃	西平勝子	〃 〃
〃	喜屋武トシ子	〃 〃
〃	比嘉春子	〃 〃
清掃員	渡慶次柴宝	清掃に関すること。

博物館友の会職員	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

職 員	氏 名	摘 要
< 転 出 >		
庶務課長	大城正勝	保健体育課主査へ
充指導主事	高良松一	小禄高校教頭へ
副主査	玉代勢理子	那覇教育事務所副主査へ
主任専門員	金武正紀	退職（那覇市教委文化課主幹）（平成2年4月30日）
専門員	玉城朝健	退職（平成元年9月30日）
< 転 入 >		
庶務課長	大村光仁	保健体育課主査から
充指導主事	上門清春	開邦高校教諭から
副主査	宣保光子	那覇教育事務所副主査から

(4) 博物館協議会名簿

	委 員 名	所 属	職 名
学 識 経 験 者	翁長自修	琉大教育学部美術工芸科（美術工芸）	教 授
	西平守孝	〃 理学部生物学科（自然）	〃
	金城正篤	〃 法文学部史学科（歴史）	〃
	平敷令治	沖国大文学部（民俗）	〃
	嵩元政秀	興南中学校（考古） (副会長)	校 長
学校教育	浦崎修子	首里中学校	〃
	安谷昭吉	中部農林高校	〃
社会教育	高良房子	沖縄県婦人連合会	理 事
	屋田直勝	沖縄県P.T.A連合会	会 長
	新城紀秀	沖縄県社会教育委員 (会長)	議 長

任期：平成2年5月1日～平成4年4月30日

II 入館者数 (平成1年4月1日～平成2年3月31日、特別展等を含む)

1 月別入館者数

年月日	内訳					内訳					内訳					内訳		
	大人	高生	大人	中生	小生	合計	大人	高生	大人	中生	小生	合計	大人	高生	大人	中生	小生	合計
平成1年4月	3,855 (132)	417	508 (6)	4,780 (138)	1,001 (103)	571	749 (32)	2,321 (135)	4,856 (235)	988	1,257 (38)	7,101 (273)	25	295				
5月	3,849 (199)	307	415 (2)	4,571 (201)	911 (173)	333	1,337 (14)	2,581 (187)	4,760 (372)	640	1,752 (16)	7,152 (388)	24	314				
6月	2,424 (152)	66	185 (3)	2,675 (155)	1,075 (183)	1,717 (25)	1,085 (19)	3,877 (227)	3,499 (335)	1,783 (25)	1,270 (22)	6,552 (382)	21	330				
7月	3,792 (120)	341	731 (69)	4,864 (189)	886 (85)	456	203 (242)	1,545 (327)	4,678 (205)	797	934 (311)	6,409 (516)	25	277				
8月	6,666 (207)	743 (3)	2,577 (124)	9,986 (334)	947 (133)	99	619 (147)	1,665 (280)	7,613 (340)	842 (3)	3,196 (271)	11,651 (614)	27	454				
9月	3,516 (122)	476	174 (16)	4,166 (138)	540 (160)	718 (5)	111 (108)	1,369 (273)	4,056 (282)	1,194 (5)	285 (124)	5,535 (411)	24	248				
10月	3,658 (196)	149	292 (5)	4,099 (201)	1,281 (456)	1,583 (228)	4,118 (684)	6,982 (652)	4,939 (684)	1,732 (5)	4,410 (233)	11,081 (885)	25	479				
11月	9,015 (611)	882	1,083 (38)	10,980 (649)	1,404 (602)	3,002 (486)	5,598 (1,088)	10,004 (1,213)	10,419 (1,213)	3,884 (1,213)	6,681 (524)	20,984 (1,737)	25	909				
12月	2,477 (125)	207	201 (103)	2,885 (228)	359 (303)	5,561 (82)	419 (82)	6,339 (385)	2,836 (428)	5,768 (428)	620 (185)	9,224 (613)	22	447				
平成2年1月	7,096 (325)	489	2,450 (473)	10,035 (798)	586 (66)	577 (124)	466 (190)	1,629 (190)	7,682 (391)	1,066 (391)	2,916 (597)	11,664 (988)	17	744				
2月	27,232 (1,265)	2,785	13,225 (2,491)	43,242 (3,756)	2,109 (546)	2,717 (44)	3,912 (803)	8,738 (1,393)	29,341 (1,811)	5,502 (44)	17,137 (3,294)	51,980 (5,149)	24	2,380				
3月	4,136 (166)	1,216	457 (16)	5,809 (182)	400 (150)	842	793 (201)	2,035 (351)	4,536 (316)	2,058 (316)	1,250 (217)	7,844 (533)	22	381				
合 計	77,716 (3,620)	8,078 (3)	22,298 (3,346)	108,092 (6,969)	11,499 (2,960)	18,176 (74)	19,410 (2,486)	49,085 (5,520)	89,215 (6,580)	26,254 (77)	41,708 (5,832)	157,177 (12,489)						
総 合	81,336	8,081	25,644	115,061	14,459	18,250	21,896	54,605	95,795	26,331	47,540	169,666	281	604				

() 内は無料入館者

曜日別入館者数

内 曜 日	個人入館者数				団体入館者数				入館者総計				開館 日数	1日平均入館者数		
	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計	大人	高大生	小中生	合計		個人	団体	合計
月	4,692 (168)	377	3,333 (624)	8,402 (792)	193 (35)	161	257 (40)	611 (75)	4,885 (203)	538	3,590 (664)	9,013 (867)	4	2,239	172	2,471
火	8,551 (391)	967	1,003 (130)	10,521 (521)	1,959 (495)	2,323 (25)	3,416 (655)	7,698 (1,175)	10,510 (886)	3,290 (25)	4,419 (785)	18,219 (1,696)	47	235	189	424
水	8,637 (388)	958	1,032 (150)	10,627 (538)	1,523 (681)	3,762	4,530 (565)	9,815 (1,246)	10,160 (1,069)	4,720	5,562 (715)	20,442 (1,784)	46	243	241	483
木	9,319 (380)	986 (3)	963 (188)	11,268 (571)	1,441 (573)	4,151	2,304 (761)	7,896 (1,334)	10,760 (953)	5,137 (3)	3,267 (949)	19,164 (1,905)	45	263	205	468
金	11,311 (595)	1,441	2,052	14,804	1,891	2,427	4,581	8,899	13,202	3,868	6,633	23,703	46	341	214	555
土	15,190 (1,106)	1,637	4,780 (704)	21,607 (1,810)	1,857 (364)	3,935 (5)	2,901 (119)	8,693 (488)	17,047 (1,470)	5,572 (5)	7,681 (823)	30,300 (2,298)	46	509	200	709
日	20,016 (592)	1,712	9,135 (1,286)	30,863 (1,878)	2,635 (209)	1,417	1,421 (31)	5,473 (240)	22,651 (801)	3,129	10,556 (1,317)	36,336 (2,118)	47	697	122	819
合 計	77,716 (3,620)	8,078 (3)	22,298 (3,346)	108,092 (6,969)	11,499 (2,960)	18,176 (74)	19,410 (2,486)	49,085 (5,520)	89,215 (6,580)	26,254 (77)	41,708 (5,832)	157,177 (12,489)				
総合計	81,336	8,081	25,644	115,061	14,459	18,250	21,896	54,605	95,795	26,331	47,540	169,666	281	410	194	604

() 内は無料入館者

団体入館者数

内 記 年 月	県 内						県 外						国 外						総 計							
	大 人		高 大 生		小 中 生		大 人		高 大 生		小 中 生		大 人		高 大 生		小 中 生									
	團 體 數	人 員 數																								
平成1年4月	8	316	—	6	744	14	1,060	18	623	2	571	1	5	21	1,199	2	62	—	2	62	37	2,321				
5月	13	559	—	7	531	20	1,090	14	352	3	333	13	806	30	1,491	—	—	—	—	—	50	2,581				
6月	14	771	2	118	13	711	29	1,600	4	159	11	1,599	4	340	19	2,098	1	145	—	1	34	2	179	50	3,877	
7月	10	247	1	23	2	49	13	319	7	639	3	433	1	134	11	1,206	—	—	1	20	1	20	25	1,545		
8月	3	169	1	3	8	330	12	502	11	778	2	96	8	289	21	1,163	—	—	—	—	—	33	1,665			
9月	7	228	1	20	2	111	10	359	6	191	12	698	—	18	889	1	121	—	1	121	29	1,369				
10月	7	303	3	134	25	3,005	35	3,442	21	742	6	1,449	6	1,113	33	3,304	3	236	—	3	236	71	6,982			
11月	18	597	5	198	56	5,242	79	6,037	20	785	16	2,743	3	356	39	3,884	2	22	2	61	—	4	83	122	10,004	
12月	8	260	1	1	5	378	14	639	2	99	33	5,560	2	41	37	5,700	—	—	—	—	—	51	6,339			
平成2年1月	9	262	5	264	7	425	21	951	6	205	1	263	1	1	8	469	—	1	34	—	1	34	30	1,454		
2月	30	1,079	22	1,647	48	3,558	100	6,284	4	122	5	911	—	9	1,033	2	180	—	—	2	180	111	7,497			
3月	3	113	—	5	465	8	578	9	287	8	806	3	328	20	1,421	—	1	36	—	1	36	29	2,035			
計	130	4,904	41	2,408	184	15,549	355	22,861	122	4,982	102	15,462	42	3,413	266	23,857	11	766	4	131	2	54	17	951	638	47,669

※有料のみ（前売券1,416名は除く）

移動博物館入館者数（南大東村）

	小 人	大 人	合 计
5月27日（土）	243	132	375
28日（日）	188	155	343
合 計	431	287	718

特別展「インドネシアの更紗展」入館者数の内訳

平成元年11月1日(水)~26日(日)

月 日	曜日	有料入館者										無料入館者				入館者 総合計	
		個人					団体					合 計	招 待	引 率	その他の 合 計		
		大 人	高 大	小 中	計	大 人	高 大	小 中	計	大 人	高 大						
11月 1日	水	194	25	27	246	20		532	552	798	1	39	87	127	925		
2日	木	266	17	5	288	106	36	447	589	877	2	33	20	55	932		
3日	金	1,304	86	464	1,854			0	1,854	24		33	57	1,911			
4日	土	408	12	28	448	20		20	468	4	1	5	10	478			
5日	日	633	26	96	755	173		173	928	5	7	8	20	948			
6日	月	休館日															
7日	火	236	19	3	258		64	266	330	588	5	11	13	29	617		
8日	水	244	49	5	298	38		819	857	1,155	1	36	35	72	1,227		
9日	木	238	16		254	20	263		283	537	4	16	45	65	602		
10日	金	272	7	15	294	56	263	622	941	1,235	1	38	46	85	1,320		
11日	土	260	23	23	306	126		271	397	703	11	12	42	65	768		
12日	日	457	162	90	709	74		74	783	11	1	12	24	807			
13日	月	休館日															
14日	火	233	14		247	22		348	370	617	3	18	58	79	696		
15日	水	315	13	1	329	63	353	89	505	834	9	26	110	145	979		
16日	木	255	7	4	266	96	370	194	660	926	10	25	58	93	1,019		
17日	金	223	15	3	241		171	671	842	1,083	8	42	8	58	1,141		
18日	土	318	43	42	403	77	399	184	660	1,063	8	22	19	49	1,112		
19日	日	476	145	88	709	59		59	768	15	11	12	38	806			
20日	月	休館日															
21日	火	216	11	22	249		88	346	434	683	15	28	130	173	856		
22日	水	279	14	26	319	57	249	332	638	957	12	60	25	97	1,054		
23日	木	勤労感謝の日															
24日	金	251	49	2	302	27	44	0	71	373	20	3	20	43	416		
25日	土	477	30	21	528	203		164	367	895	16	16	23	55	950		
26日	日	1,066	61	118	1,245	82		82	1,327	64	3	20	87	1,414			
累 計		8,621	844	1,083	10,548	1,319	2,300	5,285	8,904	19,452	249	448	829	1,526	20,978		

特別展「インドネシアの更紗展」曜日別入館者数

内 訳 曜 日	個 人 入 館 者 数				団 体 入 館 者 数				入 館 者 総 計				開館 日数	1 日平均入館者数		
	大 人	高 大	小 中 生	合 計	大 人	高 大	小 中 生	合 計	大 人	高 大	小 中 生	合 計		個 人	団 体	合 計
火	685 (55)	44	25 (11)	754 (66)	22 (68)	152	960 (147)	1,134 (215)	707 (123)	196	985 (158)	1,888 (281)	3	273	450	723
水	1,032 (114)	101	59 (6)	1,192 (120)	178 (167)	602	1,772 (154)	2,552 (321)	1,210 (281)	703	1,831 (160)	3,744 (441)	4	328	718	1,046
木	759 (72)	40	9	808 (72)	222 (74)	669	641 (67)	1,532 (141)	981 (146)	709	650 (67)	2,340 (213)	3	293	558	851
金	2,050 (111)	157	484 (3)	2,691 (114)	83 (129)	478	1,293 (129)	1,854 (240)	2,133 (240)	635	1,777 (3)	4,545 (243)	4	701	496	1,197
土	1,463 (112)	108	114 (8)	1,685 (120)	426 (52)	399	619 (7)	1,444 (59)	1,889 (164)	507	733 (15)	3,129 (179)	4	451	376	827
日	2,632 (134)	394	392 (8)	3,418 (142)	388 (22)		(5)	388 (27)	3,020 (156)	394	392 (13)	3,806 (169)	4	890	104	994
合 計	8,621 (598)	844	1,083 (36)	10,548 (634)	1,319 (512)	2,300	5,285 (380)	8,904 (892)	9,940 (1,110)	3,144	6,368 (416)	19,452 (1,526)				
総合計	9,219	844	1,119	11,182	1,831	2,300	5,665	9,796	11,050	3,144	6,784	20,978	22	508	445	953

() 内は無料入館者

特別展「大アンデス文明展」入館者数の内訳

平成2年1月23日(火)～2月24日(土)

月 日	曜日	有 料 入 館 者										無 料 入 館 者				入館者 総合計	
		個 人					団 体					合 計	引 率	招 待	その他の 合 計		
		大 人	高 生	大 学 生	中 学 生	合 計	大 人	高 生	大 学 生	中 学 生	合 計						
1月23日	火	381	58	13	452	48					48	500	15	1	72	88	588
	24日	439	32	31	502	47	12	27	86	588				43	43	631	
	25日	302	29	30	361	97	87	36	220	581	9	6	34	49	630		
	26日	345	18	53	416	8	6	34	48	464	2	7	21	30	494		
	27日	751	48	368	1,167	43	403	13	459	1,626	12	19	81	112	1,738		
	28日	2,051	118	1,493	3,662	72	4	28	104	3,766	1	37	305	343	4,109		
	29日	月	443	35	198	676	16	38	37	91	767	3	7	54	64	831	
	30日	火	416	41	29	486	45	0	81	126	612	10	5	44	59	671	
	31日	水	367	37	29	433	98	27	209	334	767	16	8	54	78	845	
2月1日	木	385	60	30	475	27	36	73	136	611	7	6	117	130	741		
	2日	金	344	66	44	454	4	21	219	244	698	15	1	47	63	761	
	3日	土	792	105	380	1,277	84	12	65	161	1,438	2	15	109	126	1,564	
	4日	日	1,768	112	1,239	3,119	40	6	27	73	3,192	3	43	233	279	3,471	
	5日	月	667	94	574	1,335	58	16	38	112	1,447	15	15	92	122	1,569	
	6日	火	315	52	27	394	74	543	35	652	1,046	27	13	77	117	1,163	
	7日	水	391	89	17	497	48	194	389	631	1,128	50	18	52	120	1,248	
	8日	木	452	46	32	530	30	312	0	342	872	16	6	61	83	955	
	9日	金	347	37	64	448	71	5	2	78	526	3	11	18	32	558	
	10日	土	895	60	371	1,326	94	124	180	398	1,724	21	33	123	177	1,901	
	11日	日	1,906	137	1,539	3,582	140	45	322	507	4,089	4	54	336	394	4,483	
	12日	月	2,966	184	2,481	5,631	96	10	143	249	5,880	1	88	507	596	6,476	
	13日	火	430	29	40	499	32	43	207	282	781	11	4	58	73	854	
	14日	水	349	45	18	412	211	0	184	395	807	24	9	42	75	882	
	15日	木	476	106	35	617	17	149	1	167	784	9	6	62	77	861	
	16日	金	525	71	94	690	57	2	683	742	1,432	62	10	225	297	1,729	
	17日	土	1,255	140	542	1,937	294	358	310	962	2,899	26	34	183	243	3,142	
	18日	日	3,432	225	2,649	6,306	83	329	103	515	6,821	11	88	402	501	7,322	
	19日	月	616	64	80	760	23	97	39	159	919	8	18	59	85	1,004	
	20日	火	891	100	96	1,087	51	0	42	93	1,180	10	37	68	115	1,295	
	21日	水	1,027	138	127	1,292	132	4	491	627	1,919	37	33	145	215	2,134	
	22日	木	1,529	125	194	1,848	166	72	190	428	2,276	38	50	205	293	2,569	
	23日	金	1,900	202	500	2,602	140	308	19	467	3,069	35	81	248	364	3,433	
	24日	土	3,574	498	2,052	6,124	137	31	150	318	6,442	9	172	391	572	7,014	
	累 計		32,727	3,201	15,469	51,397	2,583	3,294	4,377	10,254	61,651	512	935	4,568	6,015	67,666	

特別展「大アンデス文明展」曜日別入館者数

内 訳 曜 日	個 人 入 館 者 数				団 体 入 館 者 数				入 館 者 総 計				開館 日数	1 日 平 均 入 館 者 数		
	大 人	高 生	小 中 生	合 計	大 人	高 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計		個 人	団 体	合 計
月	4,692 (168)	377	3,333 (624)	8,402 (792)	193 (35)	161	257 (40)	611 (75)	4,885 (203)	538	3,590 (664)	9,013 (867)	4	2,299	172	2,471
火	2,433 (172)	280	205 (87)	2,918 (259)	250 (62)	586	365 (131)	1,201 (193)	2,683 (234)	866	570 (218)	4,119 (452)	5	635	279	914
水	2,573 (141)	341	222 (94)	3,136 (235)	536 (149)	237	1,300 (147)	2,073 (296)	3,109 (290)	578	1,522 (241)	5,209 (531)	5	674	474	1,148
木	3,144 (168)	366	321 (135)	3,831 (303)	337 (122)	656	300 (207)	1,293 (329)	3,481 (290)	1,022	621 (342)	5,124 (632)	5	827	324	1,151
金	3,461 (215)	394	755 (160)	4,610 (375)	280 (144)	342	957 (223)	1,579 (411)	3,741 (359)	736	1,712 (383)	6,189 (786)	5	997	398	1,395
土	7,267 (375)	851	3,713 (670)	11,831 (1,045)	652 (78)	928	718 (108)	2,298 (186)	7,919 (453)	1,779	4,431 (453)	14,129 (1,231)	5	2,575	497	3,072
日	9,157 (277)	592	6,920 (1,194)	16,669 (1,471)	335 (19)	384	480 (26)	1,199 (45)	9,492 (296)	976	7,400 (1,220)	17,868 (1,516)	4	4,535	311	4,846
合 計	32,727 (1,516)	3,201	15,469 (2,964)	51,397 (4,480)	2,583 (609)	3,294 (44)	4,377 (882)	10,254 (1,535)	35,310 (2,125)	6,495 (44)	19,846 (3,846)	61,651 (6,015)				
総合計	34,243	3,201	18,433	55,877	3,192	3,338	5,259	11,789	37,435	6,539	23,692	67,666	33	1,693	357	2,050

() 内は無料入館者

2 県内外児童生徒学生団体見学者 小学校 (13,240名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	13	城北小学校	156名	10	21	伊平屋小学校	29名	11	16	屋良小学校	87名
	14	天妃小学校	150名	22	金武小学校	144名	17	本部小学校	149名		
	15	松川小学校	165名	24	与那原東小学校	130名	"	佐敷小学校	96名		
	28	南風原小学校	234名	"	北谷小学校	68名	"	稻田小学校	23名		
	30	城岳小学校	39名	"	安慶田小学校	171名	"	久志小学校	24名		
5	1	与那原小学校	130名	26	普天間小学校	141名	21	高原小学校	236名		
	10	鹿浦小学校 (鹿児島県)	30名	27	久辺小学校	47名	"	船越小学校	41名		
	17	喜念小学校 (鹿児島県)	330名	"	美里小学校	254名	"	平敷屋小学校	83名		
	20	福嶺小学校	32名	"	兼原小学校	166名	22	辻土名小学校	54名		
	25	平良第一小学校	212名	"	読谷小学校	110名	"	東小学校	28名		
	26	下地小学校	54名	"	諸見小学校	148名	"	瀬喜田小学校	22名		
	"	与那国小学校	24名	28	和光小学校	133名	"	今帰仁小学校	69名		
	28	城辺小学校	55名	31	城前小学校	151名	"	佐手小学校	29名		
	31	鏡原小学校他1校	45名	11	1 白川小学校	119名	"	屋部小学校	74名		
6	1	Okinawa Christian School	38名	"	漢那小学校	23名	"	奥間小学校	30名		
	"	久松小学校	43名	"	南原小学校	35名	"	奥小学校	26名		
	"	西辺小学校	45名	"	屋我地小学校	31名	"	平安座小学校	38名		
	3	狩俣小学校	21名	"	米須小学校	51名	25	東江小学校	171名		
	"	砂川小学校	46名	"	真壁小学校	56名	28	大北小学校	114名		
	4	城東小学校	21名	"	喜屋武小学校	57名	30	仲泊小学校	38名		
	6	9 南小学校	148名	"	あげな小学校	127名	12	14 大岳小学校	36名		
	13	多良間小学校	29名	"	兼次小学校	36名	16	真嘉比小学校	114名		
	16	上野小学校	67名	"	真喜屋小学校	28名	12	城西小学校 (~29日)	198名		
	"	宮島小学校	26名	2	宜野座小学校	44名	2	2 大名小学校	94名		
	20	知名町小学校合同修学旅行 (鹿児島県)	146名	"	潮平小学校	155名	3	津嘉山小学校	39名		
	21	佐良浜小学校	86名	"	天底小学校	40名	7	楚州小学校	23名		
	"	面繩小学校 (鹿児島)	38名	"	座安小学校	130名	"	城西小学校	32名		
	"	城西小学校 (~11月16日)	488名	7	金城小学校	149名	10	糸満南小学校	162名		
	24	石嶺小学校	175名	"	山内小学校	125名	"	城南小学校	20名		
7	12	仲里小学校	30名	8	美里小学校	255名	11	北美小学校	66名		
	20	キンザ一小学校	22名	"	大里北小学校	62名	14	崎本部小学校	20名		
	9	高嶺小学校	107名	"	宇栄原小学校	230名	17	石嶺小学校	150名		
	10	7 石垣小学校	117名	"	安富祖小学校	43名	"	玉城小学校	94名		
	12	伊江小学校	60名	10	羽地小学校	92名	"	津嘉山小学校	46名		
	13	登野城小学校	249名	11	名護小学校	139名	19	与那原東小学校	35名		
	"	西原小学校	194名	"	嘉数小学校	119名	20	安謝小学校	225名		
	"	馬天小学校	91名	"	高江洲小学校	71名	"	石嶺小学校 (~21日)	180名		
	17	新川小学校	188名	"	恩納小学校	39名	22	安謝小学校	224名		
	"	普天間第二小学校	141名	"	古堅小学校	146名	23	与那原東小学校	28名		
	19	宮森小学校	118名	11	嘉芸小学校	45名	24	北玉小学校	87名		
	"	伊是名小学校	29名	"	城北小学校	141名	3	6 城岳小学校	126名		
	20	松田小学校	24名	14	牧港小学校	138名	7	久茂地小学校	76名		
	"	渡慶次小学校	105名	"	上本部小学校	43名	"	高良小学校	164名		
	"	武蔵野東小学校 (東京都)	102名	"	大宮小学校	184名	8	与儀小学校	89名		
	"	西小学校	59名	15	古堅南小学校	92名	16	城西小学校	34名		

中学校 (6,159名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
5	9	成城学園中学校 (~11日、東京都)	129名	10	25 桜美林中学校 (東京都)	92名	2	2 松島中学校	156名
	13	名瀬中学校 (鹿児島県)	261名	31	南風原中学校	191名	6	真和志中学校	39名
	24	城ヶ丘中学校 (鹿児島県)	43名	11	2 具志頭中学校	99名	7	楚州中学校	13名
	"	大棚中学校 (鹿児島県)	25名	8	糸満中学校	262名	"	興南中学校	349名
	25	大川中学校 (鹿児島県)	31名	11	小宿中学校 (鹿児島県)	97名	11	湧川中学校	20名
	"	伊子茂中学校 (鹿児島県)	25名	16	知念中学校	118名	13	松島中学校	191名
	17	阿蘇中学校 (熊本県)	121名	17	山手学院中学校 (神奈川県)	86名	"	松城城中学校	35名
7	7	松城中学校	21名	"	読谷中学校	328名	14	首里中学校	162名
8	5	神原中学校	20名	18	西南学院中学校 (福岡県)	193名	16	石嶺中学校	823名
	25	桑江中学校	40名	28	桑江中学校	178名	20	真和志中学校	39名
10	5	大川東中学校 (福岡県)	206名	12	6 北谷中学校	196名	21	昭和薬科大附属中学校	149名
	6	松城中学校	21名	1	26 松島中学校 (~30日)	119名	3	11 明星学園中学校	146名
	14	金久中学校 (鹿児島県)	351名	31	松城中学校	232名	16	成城中学校 (東京都)	178名
	17	大津中学校 (熊本県)	291名	2	1 石田中学校	83名			

高等学校 (16,435名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	12	須磨浦女子高校 (兵庫県) 559名	11	10	広陵高等学校 (広島県) 234名	12	/	常葉学園高等学校 (~22日・静岡県) 242名
5	30	派心女子高校 (神奈川県) 157名	15	佐賀中央工業高等学校 (佐賀県) 184名	22	京都女子高等学校 (京都府) 307名		
31	自由の森学園高校 (埼玉県) 38名	15	明治学院高等学校 (~18日・大阪府) 772名	1	27	大阪高等学校 (大阪府) 275名		
6	1	浪速高校 (~3日・大阪府) 639名	16	聖望学園高等学校 (埼玉県) 183名	29	首里高等学校 38名		
3	日出女子学園高校 (東京都) 258名	21	糸満高等学校 91名	2	6	与勝高等学校 549名		
/	國土館高等学校 (東京都) 68名	22	大島工業高等学校 (鹿児島県) 182名	/	知念高等学校 (~8日) 138名			
7	石川県立工業高等学校 (石川県) 48名	/	Kubasaki High School 50名	7	浦添工業高等学校 159名			
14	徳之島農業高等学校 (鹿児島県) 56名	/	有田工業高等学校 (佐賀県) 38名	8	沖縄工業高等学校 79名			
20	明法高等学校 (東京都) 215名	28	広島大学附属高等学校 (広島県) 34名	/	首里高等学校 193名			
7	寺井高等学校 (石川県) 390名	/	内灘高等学校 (12月1日・石川県) 446名	10	沖縄女子短大附属高等学校 136名			
14	糸満高等学校 23名	30	土浦日本大学高等学校 (茨城県) 153名	13	知念高等学校 (~15日) 90名			
8	甲陵高校 (山梨県) 43名	/	東海大学管生高等学校 (~12月3日・東京都) 651名	15	三和高等学校 (広島県) 89名			
9	明星学園 (東京都) 72名	/	6	/	浦添商業高等学校 21名			
8	九州電機学園高等学校 (福岡県) 155名	12	北陽高等学校 (~9日・大阪府) 649名	17	星野女子高等学校 (~18日・埼玉県) 673名			
9	佐世保工業高等学校 (長崎県) 40名	7	鶴来高等学校 (石川県) 261名		開邦高等学校 25名			
30	鹿野高等学校 (山口県) 64名	8	古川商業高等学校 (~9日・宮城県) 454名	/	沖縄工業高等学校 85名			
/	國土館高等学校 (東京都) 74名	9	精華女子高等学校 (大阪府) 282名	19	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校 (大阪府) 37名	22	首里高等学校 65名	
10	加賀高等学校 (石川県) 348名	/	6	土浦日大高等学校 (~13日・茨城県) 716名	23	尾山台高等学校 (石川県) 300名		
17	広島工大附属工業高等学校 (広島県) 156名	10	東邦高等学校 (~15日・愛知県) 792名	3	6	千葉工商高等学校 (千葉県) 575名		
19	東奥義塾高等学校 (青森県) 384名	12	6	近畿大学附属高等学校 (京都府) 62名	15	明徳商業高等学校 (~16日・京都府) 29名		
25	精華女子高等学校 (~26日・大阪府) 348名	13	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校 (大阪府) 266名	7	茨城高等学校 (茨城県) 44名			
26	小松市立女子高等学校 (石川県) 275名	/	6	法政二高等学校 (神奈川県) 49名	27	千葉県立芸術大学 140名		
/	首里高等学校 (~11月10日) 205名	/	7	沖縄県警察学校 46名	1	長野県農業大학교 31名		
11	富士学園高等学校 (山梨県) 230名	21	琉球大学工学部 28名	2	2	沖縄ファッションアート学院 20名		
			7	文化女子大学 (東京都) 30名	11	沖縄大学考古学 37名		
			3	18	山陽女子短期大学 (~24日・広島) 129名			

大学及び専門学校 (1,568名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	24	神戸医療技術専門学校 (兵庫県) 30名	9	/	明星学園 (東京都) 75名	11	24	国際電子ビジネス専門学校 47名
5	13	福山市医師会看護専門学校 (広島県) 153名	12	玉川大学 (~21日・東京都) 72名	25	有田窯業大学校 (佐賀県) 21名		
6	1	国立大阪病院看護学校 (大阪府) 73名	/	津田塾大学、法政大学 (東京都) 34名	12	20	千代田工科芸術専門学校 (東京都) 57名	
8	沖縄中央学園 33名	19	沖縄ビジネス外語学院 23名	1	25	沖縄県立芸術大学 50名		
10	国際ソーリズム専門学校 100名	30	大分県立芸術短期大学 (大分県) 82名	23	琉球大学 140名			
24	鳥栖歯科専門学校 (佐賀県) 51名	10	21	キリスト教短期大学 50名	2	1	長野県農業大학교 31名	
24	大森家政専門学校 39名	25	沖縄県警察学校 46名	2	2	沖縄ファッションアート学院 20名		
7	14	大森家政専門学校 39名	11	2	琉球大学工学部 28名	11	11	沖縄大学考古学 37名
8	2	小倉南看護専門学校 (福岡県) 43名	7	文化女子大学 (東京都) 30名	3	18	山陽女子短期大学 (~24日・広島) 129名	
9	2	千代田学園 (東京都) 74名						

特殊学校その他 (1,155名)

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
6	1	鏡が丘養護学校 36名	12	16	真嘉比小学校 P T A 41名	2	14	那覇養護学校 (~16日) 38名
25	糸満市青空子供会 34名	1	23	泡瀬養護学校 23名	16	大平養護学校 57名		
8	6	詫谷村高志保子ども会 60名	30	鏡が丘養護学校 24名	17	たけのこ子供会 23名		
8	諸見小学校 P T A 34名	2	3	ガールスカウト17団 21名	18	若竹子供会 24名		
22	高良学童クラブ 28名	5	若草子供会 21名	/	若夏子供会 27名			
9	13	那覇養護学校 16名	11	ボーアスカウト 121名	/	本部町子供博物館 26名		
11	15	泡瀬養護学校 7名	/	カブスカウト 108名	21	沖縄ろう学校 7名		
28	2	西崎養護学校 35名	/	北美小学校 P T A 87名	/	那覇養護学校 15名		
12	1	名護養護学校 14名	/	湧川中学校 P T A 20名	22	西崎中学校 P T A 22名		
3	見取真子ども会 27名	/	名護子ども会 28名	23	大平養護学校 13名			
6	6	名護大北なかよし会 42名	/	玉城村子ども会 54名	24	なかま学童クラブ 22名		

III 展示活動

1 常設展

展示室概観

展示室は1階に「歴史展示室」(考古・歴史)と「自然史展示室」がある。2階はロビーに常設展を兼ねた「企画展示室」と「美術工芸展示室」、それに「民俗展示室」がある。各展示室を結ぶ基本的な観客導線の順序は上に述べた順となっている。

歴史展示室（第1室）は、琉球列島の形成と旧石器時代、そして九州縄文文化の南下で開始された独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代を展示した。12世紀からは、各地に支配者である按司が登場し、グスク時代が開始される。15世紀初期に沖縄は統一され、琉球王国が誕生する。琉球王国の対外貿易、外交状況、近世史の概要、近世の文化、さらに幕末、琉球処分、明治・大正・昭和の様相、沖縄戦といった通史的な流れが展示されている。

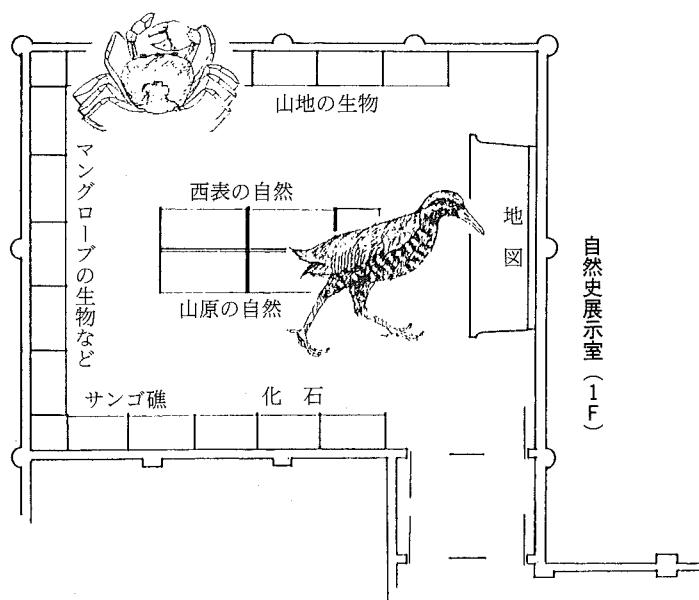
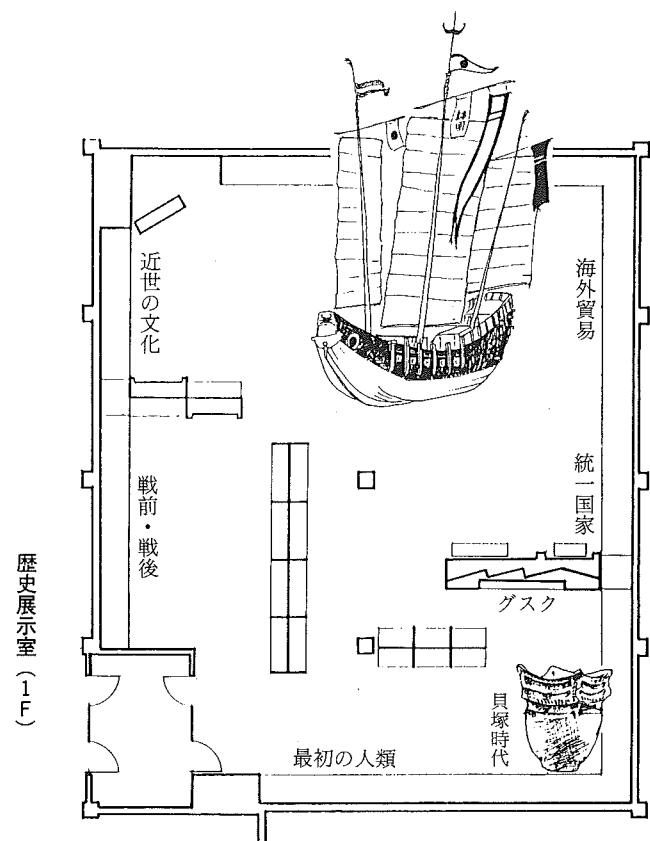
自然史展示室（第2室）は、琉球列島の成立および亜熱帯地域に広がる沖縄の自然について展示してある。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナガコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれる程多様な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理し紹介している。また、豊かな自然をとどめる山原（沖縄本島北部）と西表島の自然についても、特設コーナーを設けて展示してある。

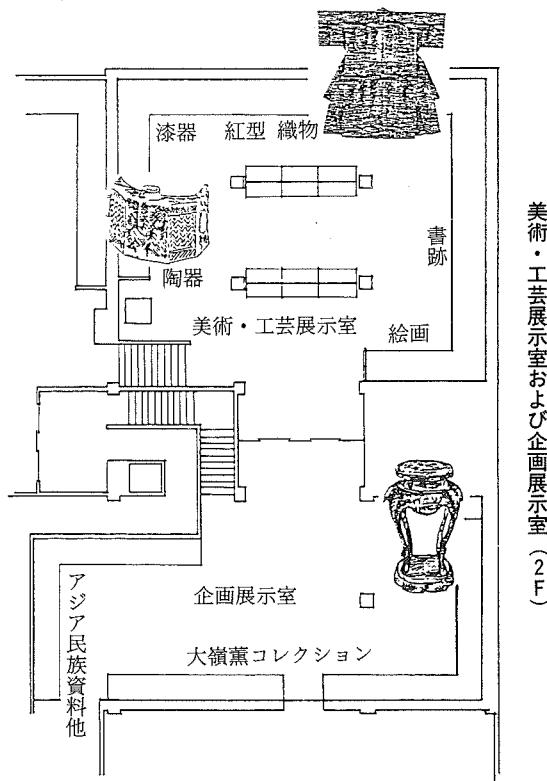
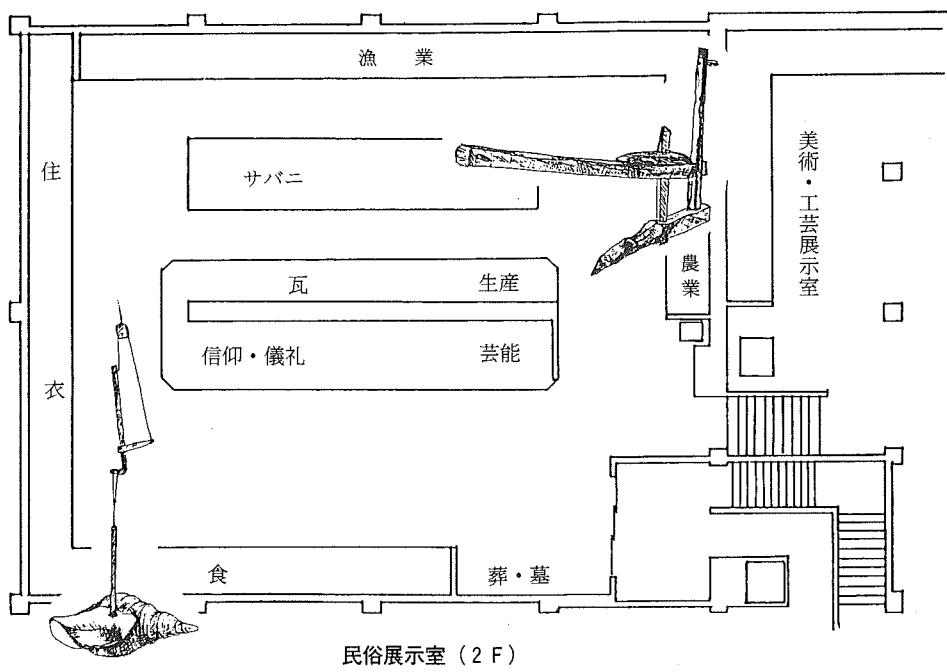
企画展示室（2階ロビー）は企画展・特別展に使用されるが、普段は当館が所蔵する「大嶺コレクション」や「東南アジアの民俗資料」「沖縄の楽器」などを展示した。

美術工芸展示室（第3室）は沖縄の代表的な文化資料である、絵画、書跡、漆器、陶器などが展示されている。わが国唯一の亜熱帯の風土と海外文化交流を背景に製作された美術工芸品は、沖縄の個性的な世界を表現している。

民俗展示室（第4室）は琉球列島の民俗資料を農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などの分野に整理分類して展示してある。これらの生活用品を通して、沖縄の生活文化とその広がりを確かめることができる。

なお、1階ロビーには、首里城正殿前に掲げられていた「万国津梁の鐘」や首里城正殿模型をはじめ扁額などの展示がなされている。また前庭には、沖之永部島の高倉と円覚寺の鐘楼などが屋外展示されている。





2 特別展

岡田コレクション「インドネシアの更紗展」

会期：平成元年11月1日（水）～11月26日（日）

会場：1階ロビー、企画展示室、第3展示室

【開催趣旨】沖縄の染織は東南アジア諸国の影響を受けて発達したと言われている。しかし、今までこれらの国々の染織品を見る機会は希有に等しく、その全貌を知るには不十分であった。今回「インドネシアの更紗展」でとりあげようとしたものは、バリ島、スマトラ島、ジャワ島などで製作され、壁掛けや儀式用の衣裳などとして、インドネシアの人々が生活の中で用いてきたものであり、沖縄との染織文化の関わりを知るだけでなく、インドネシアの社会と文化の一端を知る上でも意義深い展観である。



なお、展示に用いる更紗は、インドネシア染織の膨大な資料を擁する“岡田コレクション”の中から精選したものを最新の調査研究の成果にもとづく情報や知識とともに提示する。

また、展示会の開催は、板橋区立美術館を皮切りに富山、沖縄、秋田と巡回を予定している。

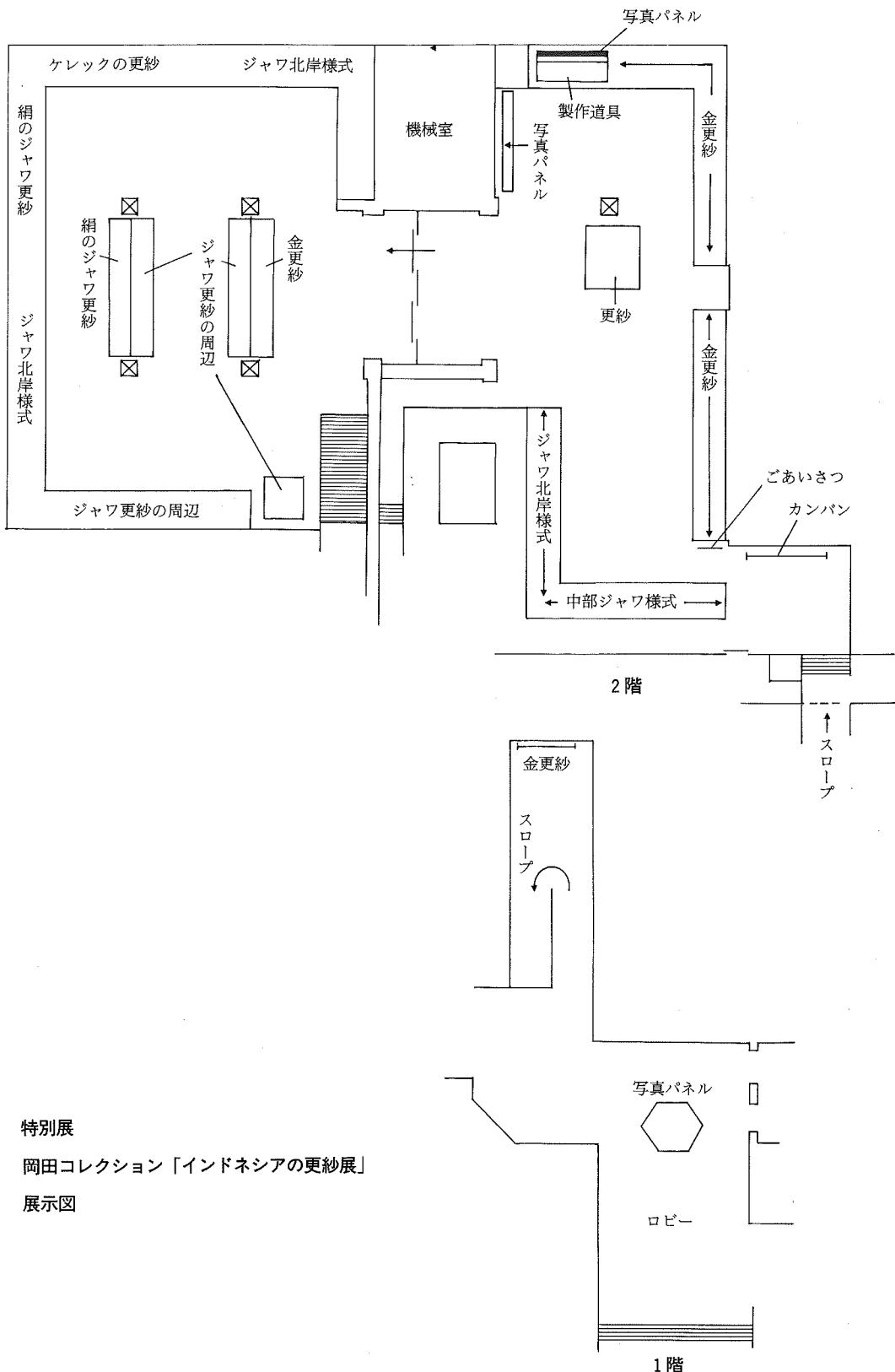
【開催形式】当館及び琉球新報社が主催した。展示の構成及び図録の編集は板橋区美術館が行い、国立民族学博物館の吉本忍氏から展示の指導を受けた。

【展示内容】展示は、インドネシア各地で製作されたいわゆる「ジャワ更紗」と金彩した「金更紗」、ジャワ更紗以外さまざまな染色技法による「ジャワ更紗の周辺」とに大別し、それらを技法別、そして製作地別に分類展示し、実物資料、写真資料、解説資料によって構成した。

なお、展示スペースの関係で、開催期間中の11月13日に更紗資料の展示替えを行うことで202点の資料を全て展示した。

【展示目録】別途作成の図録『インドネシアの更紗展』で、全展示資料を紹介・解説した。

【付記】この特別展の期間中、特別講演として「インドネシアの更紗」（講師：吉本忍）も開催された。



「大アンデス文明展」

会期：平成2年1月23日～(火)～2月24日(土)

会場：沖縄県立博物館（1階ロビー、第1・2・3室、企画展示室）

〔開催趣旨〕「大アンデス文明展」は、数千年の歴史をもつアンデス文明について、最新の学術研究の成果を踏まえ、発掘された数々の先スペイン時代の遺品ばかりでなく、現在なお使われている民族資料も含めて、農耕、染織、その他の技術、宗教、儀礼、美意識等の観念を体系的に展示し、アンデス文化に対する県民の理解を深めようとする特別展である。

特に児童生徒にとっては教科書等で学んだ「インカ帝国」の実体を見る絶好の機会であり、南米への移民が多い本県にとってはペルー共和国を知るまたとない機会である。

〔開催形式〕沖縄県立博物館、沖縄タイムス社、朝日新聞社が主催し、実行委員会（15名）を設置し、国立民族学博物館の指導を受けて実施した。なお、後援に外務省・文部省・ペルー外務省・ペルー文化庁・在日ペルー大使館・NHK沖縄放送局・琉球放送・沖縄テレビ・ラジオ沖縄・FM沖縄、協力に国立民族学博物館・国際交流基金・日本万国博覧会記念協会・沖縄郵政管理事務所・沖縄ペルー協会、協賛に日本航空・ヴァリグ・プラジル航空が参加した。

〔展示内容〕1階ロビー：レプリカ（ライソンの石彫、オベリスクの石彫、ライモンディの石板）、大型写真パネル（マチュピチュ遺跡）

第1展示室：アンデスの自然（地形模型、15種類のトウモロコシ、動植物の造形土器）、各時代の土器、ミイラ3体、ミイラ包み2体、チャンカイ文化（天野コーナー）

第2展示室：黄金製品（ジャガー頭飾など）、インカ帝国の遺品（大型壺、織物、戦闘用石器など）

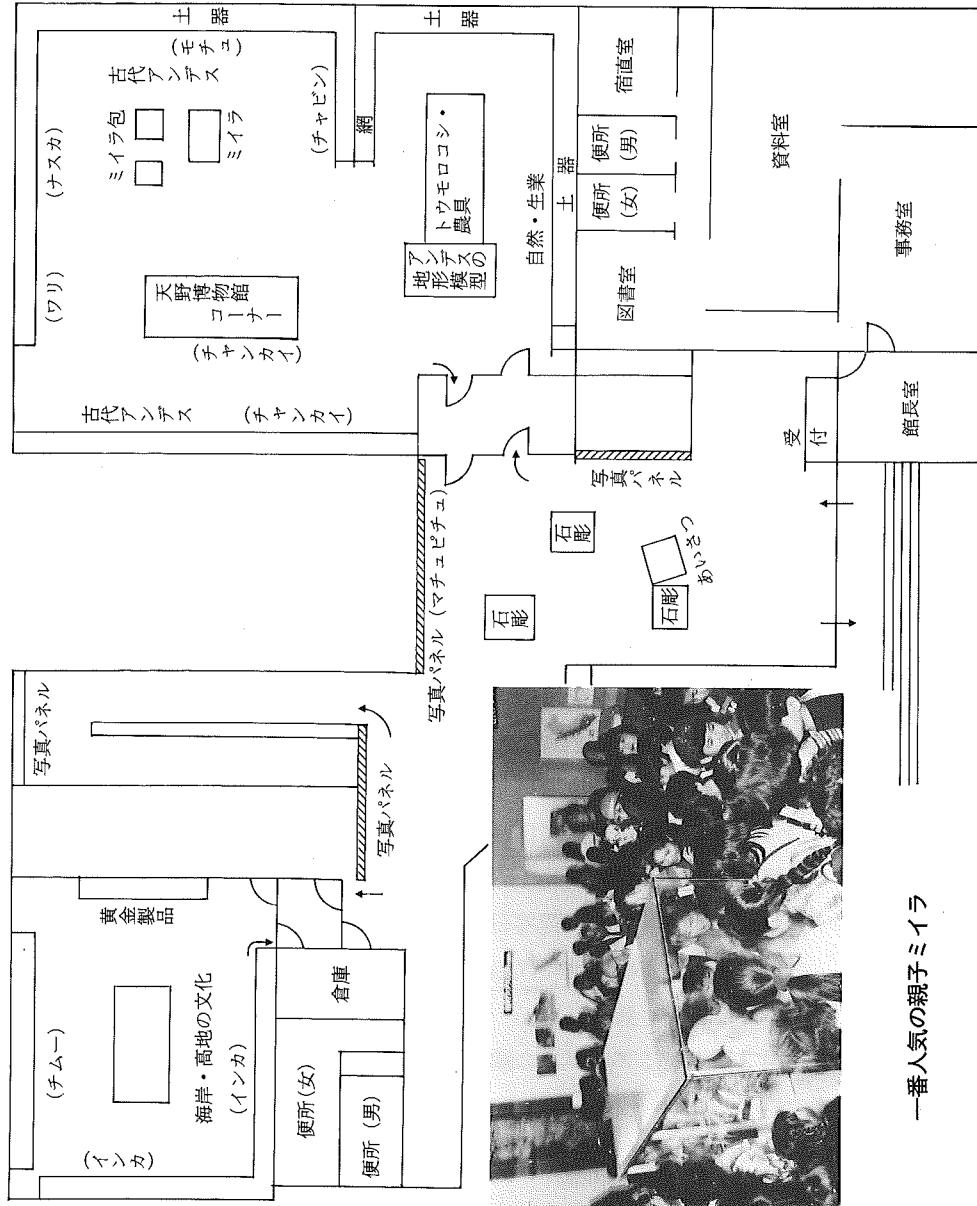
企画展示室：植民地時代の遺品、現代のアンデス（楽器、織物、あし舟、衣装など）

第3展示室：アンデスの織物（2,000年前の刺繡マント、数々のチャンカイ織など）

〔展示目録〕今回展示された約700点の展示品はすべて図録『アンデス文明』に収録されている。

〔特別講演〕特別展の期間中に、「古代アンデス文明—インカ帝国滅亡まで—」（増田義郎・東京大学名誉教授）と「南米ペルーと沖縄」（石川友紀・琉球大学教授）の特別講演が首里公民館で開催された。

「大アンデス文明展」展示図
1階平面図

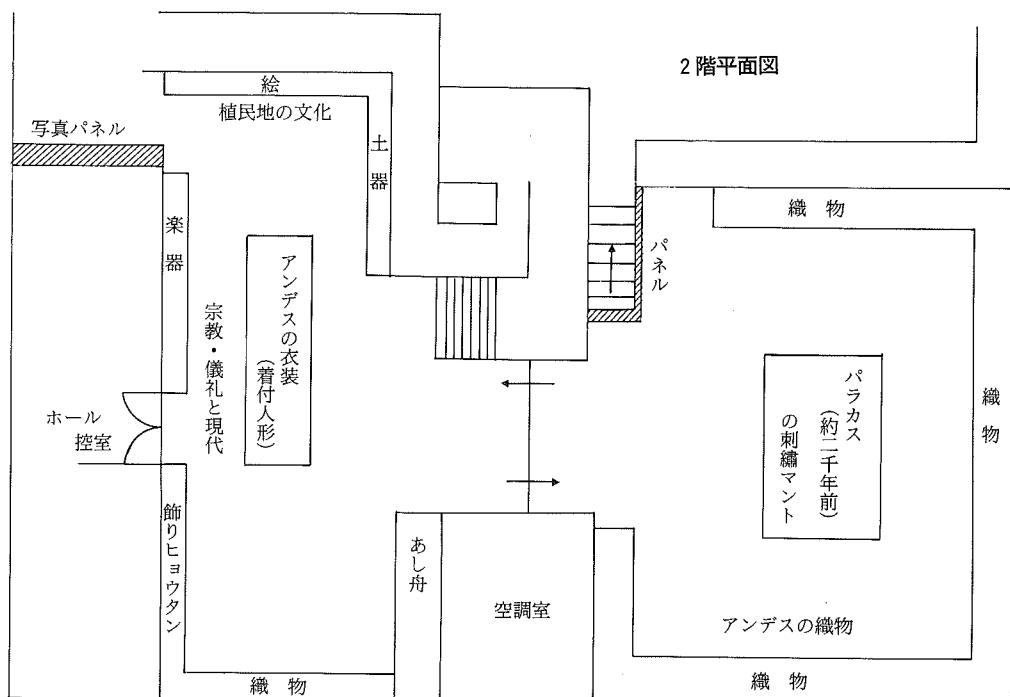




テープカット



土・日は長蛇の列



3 企画展

昭和63年度新収蔵品展

会期：平成元年5月16日（火）～6月4日（日）

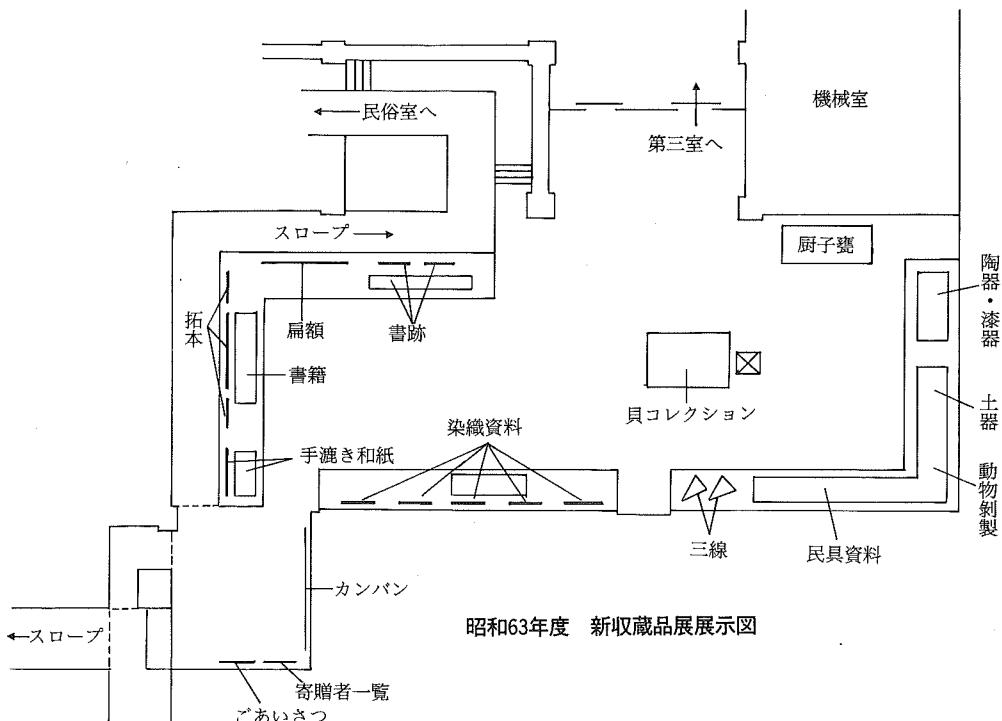
会場：企画展示室

〔開催趣旨〕前年度に寄贈・購入・収集あるいは移管・返還などで得た新資料を一般公開する目的で開催する企画展である。新資料を紹介し広く活用してもらうことはもとより、資料を提供していただいた方々に対する感謝の意を込めて毎年開催している。

〔展示内容〕展示スペースに限りがあるため、考古・歴史・自然・美術工芸・民俗の各分野で分類されて受け入れられた資料の中から精選されたものを展示。書跡では、林鴻年扁額「静観自得」、故勝公彦氏の手漉和紙、自然では貝類コレクション、歴史資料では『白姓官話』など、民俗資料では三線「マテーシ千鳥」をはじめとした三線関係資料を展示した。

〔展示目録〕展示会に際してパンフレット「昭和63年度新収蔵品展」を刊行し、そのなかで主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は『沖縄県立博物館年報』No.22にも掲載されている。

- 1) 購入の部：『白姓官話』他 39点
- 2) 寄贈の部：林鴻年扁額「静観自得」他 108点



〔感謝状の贈呈式〕林鴻年扁額「静観自得」を寄贈くださった金城氏及び三線「マテーシ千鳥」他三線関係資料をくださった又吉真也氏に5月16日（火）に感謝状を贈呈した。

真境名由康誕生100年記念「芸能資料展」

会期：平成元年12月1日（金）～12月24日（日）

会場：企画展示室

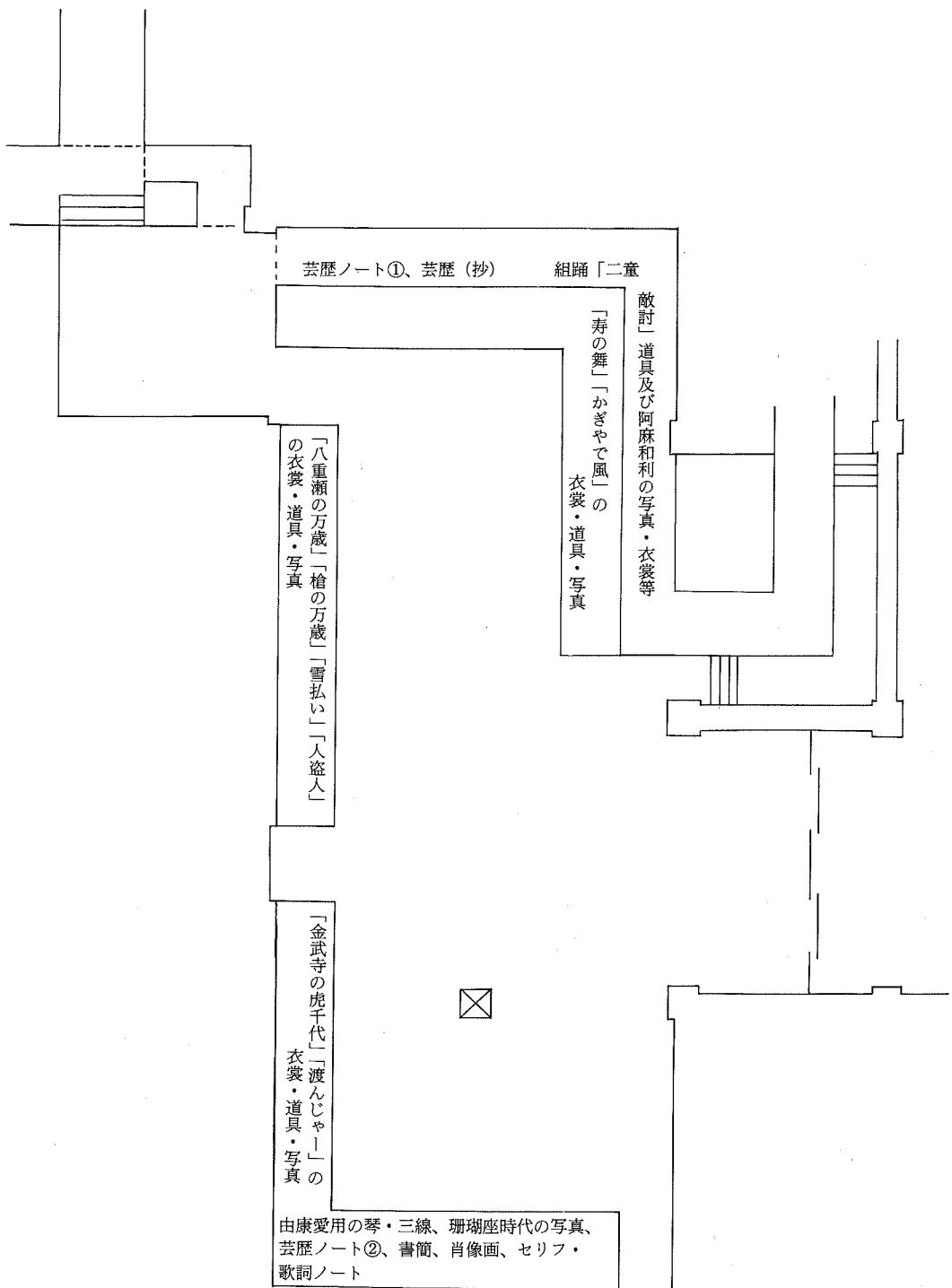
〔開催趣旨〕明治・大正・昭和の三代にわたって、沖縄の芸能実演家として、あるいは創作者、演出家、指導者として活躍された真境名由康は、1889年10月に生まれ、今年はちょうど100年になる。真境名師（1889～1982）は、7歳で初舞台を踏み、爾来、生涯を沖縄芸能とともに歩まれた。師は組踊や伝統舞踊など古典をだいじにされる一方で、新たに歌劇やセリフ劇、舞踊を作られ、数多くの作品をのこされた。真境名師の歩んでこられた道をみると、それは単に師個人を語っているのではなく、沖縄の近代芸能史を物語っているといえよう。師は沖縄の芸能の価値を最高度に評価し、それを表現してみせた。今回の企画展は真境名師の残された貴重な自筆ノート、舞台衣裳、芸能写真等の資料を整理し、展示了。この展示会を通じ、多くの方がたが沖縄芸能に対する認識を深め、文化の向上に資することを目的とした。

〔開催形式〕当館と真境名由康誕生100年記念事業会が主催した。なお、当館職員1人と記念事業会から5人が参加して芸能資料展示委員会を設置し、展示内容や展示会の推進について検討した。

〔展示内容〕真境名由康自筆芸歴ノート、日記、セリフ・歌詞ノート、「組踊五番」上演台本、組踊「大川敵討」上演台本、書簡、舞台写真、肖像画、公演パンフレット、組踊「二童敵討」阿麻和利の着物・打ち掛け・中着白衣裳・赤地下帯入道ほか衣裳及び道具、舞踊「かぎやで風」「寿の舞」「八重瀬の万歳」の衣裳及び道具、創作舞踊「槍の万歳」「渡んじゃー」の道具、創作舞踊劇「人盗人」「金武寺の虎千代」の衣裳及び道具、組踊「大川敵討」「姉妹敵討」「孝行の巻」の道具等を展示し、真境名由康の人となりと創作作品、芸能活動等がわかるように文字パネルを用いて解説した。あわせて、近代沖縄芸能史が理解できるようにした。

〔展示目録〕図録として『真境名由康誕生100年記念芸能資料展』（18ページ）を作成し、そのなかで真境名由康芸歴（抄）、真境名由康が演じる組踊「二童敵討」の阿麻和利の〈七目付〉の型ほか10余点の写真、巻末に「展示目録」を掲載した。

〔付記〕この企画展示期間中、関連催し物として記念公演会が開催された。12月9日午後2時半～4時半、於：当館講堂。大城立裕氏（作家）…「ハンド一小の世界」／崎間麗進（記念事業会会长）…「由康先生の人と芸」。



真境名由康誕生100年記念「芸能資料展」展示図

4 移動博物館

第13回移動博物館

会期：平成元年5月27日（土）・28日（日）

会場：南大東村離島振興総合センター

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館、南大東村、南大東村教育委員会

〔開催趣旨〕当館を利用するに不便な離島や遠隔地において、博物館活動を公開し、参加することによって、文化の広域普及をはかることを目的とする。第13回は南大東村において開催した。

〔展示内容〕博物館資料の展示とビデオ放映を会場にて行い、講演会は村立南大東小中学校で催した。展示は自然、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた（展示目録参照）。

〔ビデオ放映〕「琉球の風物」、「琉球の工芸」、「酒だ忍法コノハチョウ」、「ノグチゲラは生き残れるか」他

〔講演会〕日時：平成元年5月27日（土）午後2時～4時

場所：村立南大東小中学校体育館

演題：「沖縄の歴史から見た南大東島」

講師：高良倉吉（浦添市立図書館館長）

〔入場者数〕

展示会	431（小人）	287（大人）	計 718人
講演会	73（小人）	69（大人）	計 142人

合計 860人

〔予算〕国庫補助を得て総額3,834,513円で、内訳は報償費（8,000円）、費用弁償（52,780円）、旅費（554,520円）、消耗品費（180,713円）、印刷製本費（159,650円）、通信運搬費（2,878,850円）

〔展示目録〕

〈古生物〉

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、恐竜の卵の化石、世界最古の化石“コレニア”

<沖縄の生物>

写真パネル〔沖縄の天然記念物（動物）〕

ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、他
動物剥製

イリオモテヤマネコ、ダイトウオオコウモリ、オリイオオコウモリ、コガモ、ヤンバル
クイナ、アカショウビン、ヤマシギ、ホウロクシギ、キンクロハジロ、アオバト
昆虫標本（沖縄の代表的な蝶類）

アゲハチョウ科、タテハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科、他約100点

<絵画・彫刻>

首里平民の図（筆者不詳）、山水図（王翬）、琉球人行列図（豊清）、玉陵石彫獅子（レプリカ）

<書 跡>

悦基志意養壽命（雲石書）、対句（鄭嘉謨書）

<染 織>

木綿紺地手縞上衣、芭蕉朱地紹織裂地、木綿読谷山花織裂地、木綿染分地山波に鶴松竹
梅文様子供着、紅型型紙

<漆 器>

朱漆山水桜閣人物箔繪湯庫、黒漆山水螺細六角食籠

<陶 器>

緑釉嘉瓶、アンダガーミ、赤絵菊花文徳利、線彫飴差からから、赤絵撫子文碗、線彫抱
瓶、線彫魚文花瓶（金城次郎作）、獅子（石川喜進作）

<歴 史>

拓 本 万国津梁之鐘銘、円覚禪寺記、国王頌徳碑（1522年）、琉球新建國學碑文、官松
嶺記、比謝橋碑文、新修美栄橋碑記（裏表）、山北今帰仁監守來歴碑記（裏表）、崇元寺
之前之碑文〔下馬碑文〕（裏表）

その他 明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書（複写）、琉球通宝等の古錢類、勾玉

<考 古>

港川人頭骨（レプリカ）、荻堂式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、石斧、磨石、
叩石、凹石

<民 俗>

農具・着用具 ティール、ミーゾーキ、ウブル、ペーラ、ホーチ、あだん葉サバ、ワラ
ジ、アジマックワ

漁具 ユートウイ、ミーカガン、タマウーキ、チズカ、モリ、櫂

凧 龍凧、八角凧、フータン、宮古凧、日の出凧、ヤカジ凧、八重山角凧、ヤカジ

玩具 獅子メーサ、ホートウグワー、ジュリグワーブトウキ、コイ乗り童子、接司

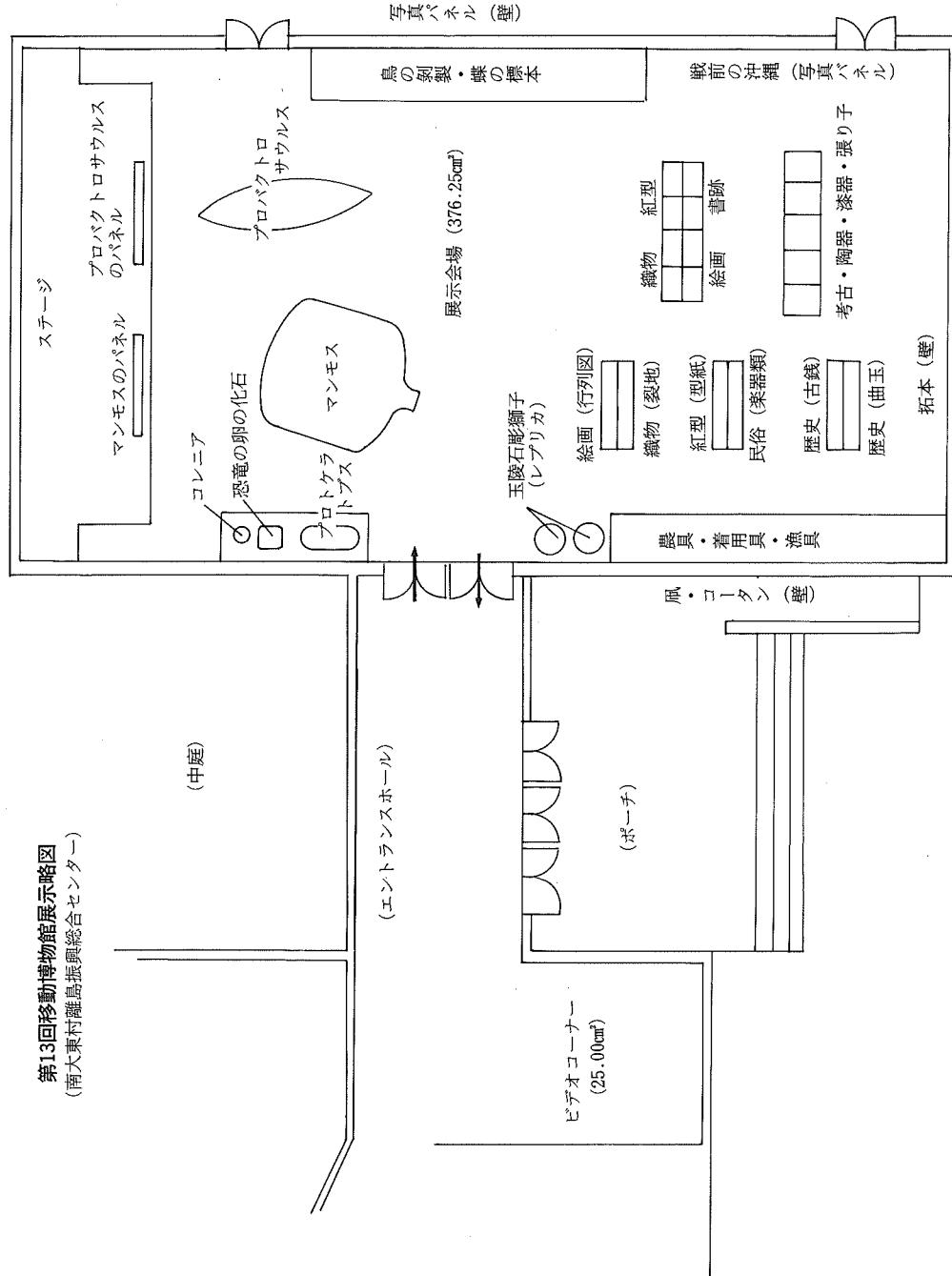
楽器等 三味線、ツメ、工工四

<戦前の沖縄（写真パネル）>

首里城守礼門、首里城歓会門、園比屋武御嶽石門、円覚寺山門、弁ヶ嶽大嶽石造拝殿、
首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、競馬、闘牛、市場、農家、葬列、サー
ターヤ、カーミ市、辻原の亀甲墓、機織り、布市場、魚売り、壺屋の陶工、臼作り、その
他



第13回移動博物館展示略図
(南大東村離島振興総合センター)



IV 教育普及活動

博物館の大きな目的の一つに展示資料を通じて知識を提供するということがある。しかし展示という手段では満たすことのできない部分があり、当館では教育普及活動の一環として移動博物館、文化講座、ビデオ映写の実施、博物館友の会事業への援助など館内外のさまざまな活動を行っているところである。

平成元年度に実施されてきた教育普及活動には次のようなものがあった。

- 1、博物館文化講座（13回）
- 2、移動博物館（南大東村）
- 3、『中学生のための博物館学習ノート』の編集・発行
- 4、ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
- 5、観覧者への展示室解説
- 6、児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
- 7、団体へのビデオの放映
- 8、博物館事業のマスコミなどへの広報
- 9、友の会事業への指導や援助

1 博物館文化講座

第175回 「考古学から見た宮古・八重山の歴史」 4月22日（土） 参加者 53人

講師：金武正紀（沖縄県立博物館主任専門員）

内容：遺跡の発掘調査で解き明かされた宮古・八重山の歴史をスライドを使って解説した。

第176回 「蔡温とその時代」 5月20日（土） 参加者 73人

講師：糸数兼治（沖縄県立図書館主幹）

内容：18世紀の政治家・思想家の蔡温（具志頭親方）の儒教思想とその社会背景を解明した。

第177回 「ラン科植物の花のしくみと進化について」 6月24日（土）

講師：横田昌嗣（琉球大学理学部助手）

参加者 25人

内容：花の女王といわれるラン科植物の生態について、スライドを用いて紹介した。

第178回 「琉球漆器・螺鈿をめぐって」 7月22日（土） 参加者 35人<定員>

講師：前田孝允（漆芸家）

内容：当館収蔵の漆器・螺鈿をまちかに見ながら、琉球漆器の流れを紹介した。

- 第179回 「沖縄の古窯」 8月12日 参加者 55人
講師：小渡清孝（地域史協議会会員）
内容：湧田古窯の発掘調査成果をもとに、スライドを使って沖縄の古窯について解説した。
- 第180回 「親子民具教室」 8月27日（日） 参加者 78人＜定員＞
講師：外原 淳（沖縄玩具伝承友の会主宰）
内容：アダンやソテツの葉、竹などを用いて、沖縄の玩具を作った。
- 第181回 「冊封使と琉球」 9月9日（土） 参加者 74人
講師：富島壮英（沖縄県立図書館主査）
内容：琉球国王任命のために派遣された中国皇帝の使者・冊封使について、スライドを使用して解説した。
- 第182回 「ニシキヘビの増殖と利用」 10月21日（土） 参加者 40人
講師：大谷 勉（沖縄子どもの国大爬虫類館館長）
内容：動物としてのヘビの話および、有用な資源としてのヘビの利用について紹介した。
- 第183回 特別講演「インドネシアの更紗」 11月3日（金） 参加者 244人
講師：吉本 忍（国立民族学博物館第2研究部助手）
内容：これまで沖縄で紹介されることのなかった更紗を通じて、インドネシアの染織文化を紹介した。
- 第184回 「沖縄の戦後芸能史」 12月16日（土） 参加者 50人
講師：大城 學（沖縄県立博物館専門員）
内容：隆盛をきわめている沖縄芸能界の戦後の歩みをまとめた。
- 第185回 特別講演「古代アンデス文明～インカ帝国滅亡まで～」
平成2年1月27日（土） 参加者 476人
講師：増田義郎（東京大学名誉教授）
内容：南米ペルーを中心とするアンデスの文化を、スライドを使ってわかりやすく解説した。
- 第186回 特別講演「南米ペルーと沖縄」 2月3日（土） 参加者 82人
講師：石川友紀（琉球大学法文学部教授）
内容：沖縄から南米ペルーへ移民した人たちの移民の歴史を、スライドを使って解説した。
- 第187回 「琉球の書」 3月10日（土） 参加者 86人
講師：屋部憲次郎（夢華書道教室主宰・書家）
内容：琉球の書の流れを、めぼしい作品をとりあげて解説した。

2 中学生のための「博物館学習ノート」の作成

昭和63年度に小学生のための「博物館学習ノート」が作成され、既に県内の小学校に配布され、博物館を利用しての郷土学習の資料として利用されています。その成果を踏まえ、平成元年度は中学生のための「博物館学習ノート」の作成にとりくんだ。

＜どのような学習ノートにしたか＞

- ① 展示されている展示物を基本としたノート
- ② 授業に生かされるノート
- ③ 博物館学習がより効果的に行なわれるノート
- ④ 子ども自身の主体的な活動やそれを発展させて自由研究を促すノート
- ⑤ 子どもが作業するノート
- ⑥ 博物館学習に興味をもたせるノート

＜どのような学習内容にしたか＞

- ① 第1室 歴史展示室……沖縄の化石人たち、貝塚人たちの生活、グスクについて、宮古・八重山のむかし、接司の発生と王国の成立、海外交流I、海外交流II、薩摩の侵攻と江戸上がり、近代沖縄の出発
- ② 第2室 自然史室……島々のおいたち、海岸の生きもの、マングローブ林の生きもの、展示室の動物を分類してみよう
- ③ 第3室 美術工芸室……絵画、書跡、織物、漆器、陶器
- ④ 第4室 民俗展示室……農具、運搬、漁具、食、住、祭り

＜どのような作成のとりくみをしたか＞

本ノートは、琉球大学の田港朝昭、新城和治、稻嶺成祚、津波高志先生に、久田通明(元コザ中校長)、新城吉規(城北中)、国吉真隆(県教育庁)、宮城良子(首里中)、仲村盛光(神原中)、前川守夫(前原高)、崎原恒新(中城中)の先生方11名を作成協力委員として、3回の委員会で検討した内容をもとに、当館の担当学芸員が執筆し作成した。

＜学校での利用はどのようにしたか＞

全琉の中学校に生徒数に応じて数冊ずつ無料配布をした。学校においては、授業の一環として、事前、事後学習もしくは生徒たちの自主学習のための学習ノートとして活用し、郷土史の学習教材として利用していただければ幸である。

V 調査研究活動

1 調査研究

知 念 勇 (学芸課長)

○瀬戸内町の陶器調査

期 間：平成元年 7月4日～5日

依頼機関：瀬戸内町教育委員会

○読谷村吹出原遺跡の発掘調査

期 間：平成元年

依頼機関：読谷村教育委員会

○タイ国焼物関係遺跡調査

期 間：平成元年12月14日～12月19日

当 真 嗣 一 (教育普及課長)

○浜比嘉島の歴史調査

調査期間：平成元年 7月27日～28日

依頼機関：県立博物館

○中世城館調査

調査期間：平成元年 8月4日～7日

依頼機関：中世城館研究会

○仲原遺跡調査

調査期間：平成元年 9月20日～21日

依頼機関：与那城村教育委員会

○勝連城跡環境整備調査

調査期間：平成2年 3月5日～6日

依頼機関：勝連町教育委員会

○糸数城跡環境整備調査

調査期間：平成2年 3月13日

依頼機関：玉城村教育委員会

高 良 松 一 (充指導主事)

○恩納村・本部町ガラス工芸調査

調査期間：平成2年12月～3月まで隨時

依頼機関：沖縄県立博物館

金 武 正 紀 (主任専門員)

○黒石川古窯遺跡発掘調査

期 間：平成元年 8月2日～8月4日

目 的：遺構調査指導

依頼機関：石垣市教育委員会

○宇堅貝塚発掘調査

期 間：平成元年 8月1日・10月17日

目 的：遺構調査指導

依頼機関：具志川市教育委員会

○上村遺跡発掘調査

期 間：平成元年 8月21日～8月25日

目 的：遺跡地形測量

依頼機関：沖縄県教育委員会文化課

○ナイクブ古墓群発掘調査

期 間：平成元年12月18日

目 的：遺構調査指導

依頼機関：那覇市教育委員会

大 城 學 (専門員)

○浜比嘉島の民俗調査（沖縄県立博物館総合調査）

期 間：平成元年 7月26日～29日

目 的：浜比嘉島の祭場と儀礼について調査し、基礎的な資料を収集する。

結 果：『県立博物館総合調査VII－浜比嘉島－』に掲載。

○沖縄の祭り調査（生涯教育推進事業）

期 間：平成元年 4月～平成 2年 3月

目 的：県内各地で行われている祭りの基礎資料を収集する。

結 果：『沖縄の祭り』として刊行。

○沖縄の神歌伝承活動調査

期 間：平成元年 6月～平成 2年 3月

目 的：八重山諸島、鳩間島のプール<豊年祭>でうたわれる神歌の調査。

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

結 果：報告書「沖縄の神歌 (III)－八重山諸島 <2>－」に掲載。

○県内所在琉球三味線調査

期 間：平成元年 7月～平成 2年 3月

目 的：県内各地に所在する三味線及び関連資料の調査。

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

結 果：調査の最終年度（平成 3 年度）に報告書を刊行する。

○浦添市の民俗芸能調査

期 間：平成元年 6 月～平成 2 年 3 月

目 的：浦添市宇前田・内間・沢崎の民俗芸能について基礎的な資料の収集。

依頼機関：浦添市教育委員会

結 果：浦添市文化財悉皆調査報告書に掲載。

千木良 芳 範 (充指導主事)

○沖縄島における移入動物相の調査（両生爬虫類）

期 間：平成元年 4 月～平成 2 年 3 月

目 的：沖縄島に持ち込まれた脊椎動物についての概況を把握する

依頼機関：世界自然保護基金日本委員会（WWF J）

○浜比嘉島における真正クモ類調査

期 間：平成元年 4 月

目 的：浜比嘉島の真正クモ類についての分布調査

○ダイトウオオコウモリ調査

期 間：平成元年 6 月～平成 2 年 3 月

目 的：国指定天然記念物であるダイトウオオコウモリの保護のための基礎資料を収集する

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

成 果：調査の最終年度に報告書を作製する

○名護市動植物総合調査

期 間：平成元年 4 月～平成 2 年 3 月

目 的：名護の動物相について基礎的な資料を収集する

依頼機関：名護市教育委員会

成 果：平成 3 年度にその成果を名護市天然記念物調査報告としてまとめる

2 著作論文

知 念 勇

○「南島沈線文系土器様式」『縄文土器大観 第 4 卷』小林達雄編 小学館発行 平成 2 年 10 月

○「考古学から見た宜野座村」『宜野座村史第 4 卷通史編』宜野座村編集発行 平成 2 年 3 月

○「吹出原遺跡」個人住宅発掘調査報告書 読谷村教育委員会 平成 2 年 3 月

○「南部九州・沖縄の風土とやきもの」『やきもの大百科 3 九州沖縄編』ぎょうせい 平成

2年1月20日

当真嗣一

- 「沖縄における鉄器生産」(『沖縄の鍛冶屋』福地廣昭著 所収 平成元年7月)
- 「新琉球史 古琉球編8~23回」『琉球新報』 平成元年9月17日~10月12日
- 「発掘調査」『重要文化財中村家住宅主家・宅地(石垣)修理報告書』平成元年9月
- 「考古学から見た沖縄の葬制・墓制」『南島の墓』 沖縄県地域史協議会 平成元年12月
- 「グスクの石積について(下)」『文化課 紀要』第6号 平成2年3月
- 「浜比嘉島小史」『沖縄県立博物館総合調査報告書VII-浜比嘉島-』 沖縄県立博物館 平成2年3月

高良松一

- 「琉球ガラス工芸の文化II」『沖縄県立博物館紀要16』 沖縄県立博物館 平成2年3月

金武正紀

- 「安里氏の断定に疑問-熱田貝塚の模倣土器-」 琉球新報 平成元年11月16日
- 「多彩な形象と色彩-大アンデス文明展に寄せて-」 沖縄タイムス社 平成2年1月31日
- 「浜比嘉島の遺跡」『県立博物館総合調査報告書VII』 沖縄県立博物館 平成2年3月
- 「新里村(東) 遺跡の青磁・白磁」「新里村(西) 遺跡の青磁・白磁」「新里村遺跡の総括」『新里村跡』 沖縄県教育委員会 平成2年3月

大城學

- 「浜比嘉島の祭場と儀礼」(『県立博物館総合調査報告書』VII-浜比嘉島-、沖縄県立博物館、平成2年3月)
- 「竹富町鳩間島のプールの神歌」(『沖縄の神歌』(III)-八重山諸島-、沖縄県教育委員会、平成2年3月)
- 「浦添市宇前田・内間・沢崎の民俗芸能」(『浦添市文化財悉皆調査報告書』 浦添市教育委員会、平成2年3月)
- 「沖縄久高島のティルル」(『文学』岩波書店、平成元年11月号、vol.57)

千木良芳範

- 「浜比嘉島の造網性のクモ類について」『沖縄県立博物館総合調査報告書- VII - 浜比嘉島』 沖縄県立博物館 平成2年3月
- 「沖縄島ヤンバル地域におけるU字型側溝への小動物の落下について(I) 落下動物の種類相と個体数、および死亡率」 沖縄県立博物館紀要 第16号 平成2年3月

- 「くにがみの文化財」 国頭村教育委員会 平成2年3月
- 「沖縄島に持ち込まれた両生爬虫類」 世界自然保護基金日本委員会報告書 平成2年3月

津波古 聰 (充指導主事)

- <資料紹介>「仏像彫刻」『沖縄県立博物館紀要』第16号 沖縄県立博物館 平成2年3月

與那嶺 一子 (学芸員補)

- 「沖縄の織機」『沖縄県立博物館紀要』第16号 沖縄県立博物館 平成2年3月

VI 収蔵資料

1 収蔵資料現在高

平成2年3月31日現在

受理次第 分類		購入	寄贈	収集	移 そ の 他	小計	総計
自然史	地質	600	424	6	2	1,032	10,090
	動物	929	6,784	468	12	8,193	
	植物	15	850			865	
美術工芸	絵画	67	512	1		580	8,782
	書跡	157	374	41	3	575	
	彫刻	5	112	132		249	
	陶磁器	426	3,130	249	492	4,297	
	漆器	225	193	162		580	
	染織	1,067	1,424	10		2,501	
歴史資料		420	3,352	333	73	4,178	4,178
考古資料		8	1,560	897	15	2,480	2,480
民俗資料		2,365	581	578	77	3,601	3,601
総計		6,284	19,296	3,877	674	29,131	29,131

2 平成元年度収蔵資料

平成2年3月31日現在

受理次第 分類		購入	寄贈	収集	移 そ の 他	小計	総計
自然史	地質						1
	動物		1			1	
	植物						
美術工芸	絵画	2	3			5	1,118
	書跡		2			2	
	彫刻						
	陶磁器		2			2	
	漆器		1			1	
	染織	2	1,106			1,108	
歴史資料		27	5			32	32
考古資料							
民俗資料		4	39			43	43
総計		35	1,159			1,194	1,194

3 平成元年度収蔵資料目録

寄贈の部

(平成元年4月1日～平成2年3月31日まで)

分類		品名	数量	寄贈者名	住所
自然	動物	シカの頭部剥製	1	川端八重子	東風平町
美術工芸	絵画	進貢船の図	1	川瀬徳二郎	神奈川県
	〃	掛軸(鍾馗の図)	1	川端八重子	東風平町
	書跡	円覚寺鐘楼	1	仲宗根すみ子	那覇市
	漆器	聯	2	慶世村清裕	那覇市
	陶磁器	花台	1	川瀬徳二郎	神奈川県
	染織	龍雲盛付達磨型大花瓶他	2	島袋常雄	那覇市
	〃	シルジ裂地	2	比嘉文子	那覇市
	〃	芭蕉黄色地絹縞に絆着物他	1,104	大城亀	那覇市
	歴史資料		1	リ一夫妻	米国
	歴史資料		2	國吉真哲	那覇市
民俗資料	バス回数券		1	大嶺昇	那覇市
	日本兵鉄カブト		1	伊藤勝一	京都市
	ジュラルミン製洗面器他		6	池原秀光	沖縄市
	木挽鋸		1	大城清	糸満市
	御繕・スイジ貝		2	上江洲均	那覇市
	石臼		1	大城ウト	名護市
	石棺		1	知念政康	那覇市
	三線箱		1	長堂正憲	神戸市
	厨子甕		1	宮城道典	那覇市
	ワラ算		2	山城蒲吉	石川市
	厨子甕他		2	宮城善光	宜野湾市
	御殿型厨子甕他		2	島袋常寛	船橋市
	石製タライ他		5	宮城弘	那覇市
	竿ばかり他		5	渡久地政秀	那覇市
	柳行李		1	矢沢秀雄	那覇市
民俗資料	籠(フィリピン産)		1	安里嗣淳	沖縄市
	ジュラルミン製やかん他		3	西平守勝	浦添市
	笊		1	久米崇聖会	那覇市
	ジュラミン製すりばち他		2	翁長良明	那覇市
	三線		1	伊佐亀吉	宜野湾市
民俗資料		三線胴	1	枕原栄仁	南風原町

購入の部

分類	品名	数量
美術工芸	滝仙人(山田真山作) 首里城の図 紬見本帳 琉球古紅型	1 1 1 1
歴史資料	『沖縄志』 中山王尚育書簡 『松風集』 『琉球玩具図譜』 『ペリー日本遠征記』 『アルセステ号朝鮮琉球航海記』 『沖縄語典』 『マーチェーサ号航海記』 『ギュツラフ中国沿岸航海記』 『ベッテルハイム聖書琉球語訳』 米軍降伏勧告チラシ 『校訂おもろさうし』 『六諭衍義大意』	5 3 1 1 3 1 1 1 1 5 1 3 1
民俗資料	漁具一式(サバニ・タンク船・モリ・網)	4

4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財重要文化財

平成2年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍 〃	おもろさうし 混効験集	22冊 2冊	昭48. 6. 6 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工芸 〃	銅鐘(旧首里城正殿鐘) 梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
〃	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)	3口	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺樓鐘)				

県指定文化財有形文化財

平成元年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻 〃	木彫円覚寺白象並びに趣意書 世持橋勾欄羽目	1軸1枚 1括	昭33. 3.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵画 〃	絹本着色花鳥図(殷元良筆) 紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	1幅 〃	昭54. 4. 9 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
〃	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	〃	〃	〃
工芸 〃	三味線江戸与那 聞得大君御殿雲龍黄金簪	1挺 1本	昭33. 8.15 昭33. 3.14	県立博物館	沖縄県 〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	1口	昭54. 9. 3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	色嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧靈応寺鐘)	1口	60. 6. 1	〃	〃
〃	梵鐘(旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天尊御鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧一品種權現鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	銅鐘残欠(旧波上宮朝鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧大安禪寺鐘)	〃	昭63. 1.12	〃	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1脚	〃	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1合	〃	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1口	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧永福寺鐘)	1口	〃	〃	〃
典籍 〃	評定所格護定本 中山世鑑 〃 中山世譜	6冊 19冊	昭31.12.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	県立博物館	沖縄県
古文書 〃	宮古島下地の首里大屋子への辞令書 明孝宗より琉球國中山王尚真への勅書	1幅 1巻	昭31.12.14 昭49.11.11	県立博物館	沖縄県 〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃	〃

VII 刊 行 物

刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁 数)	内 容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B 5 (8)	平成元年度に、寄贈、講入、収集等で当館に入った収蔵品を紹介する同名の企画展の図録
第13回移動博物館パンフレット	不定期	1,000	B 5 (4)	南大東島において開催された移動博の展示内容を紹介する。
沖縄県立博物館年報 No.22	定 期	500	B 5 (57)	前年度の当館の活動状況の報告。
沖縄県立博物館 収蔵品目録 第一集	不定期	1,000	B 5 (250)	当館が所蔵している収蔵品の総目録。1947年度から1980年度までの収蔵品を収録
沖縄の祭り	不定期	1,000	B 5 (114)	沖縄の人々の暮らしに根ざした祭りについて平易な言葉で解説し、県内各地の祭りを紹介する。
沖縄県立博物館紀要 第16号	定 期	800	B 5 (70)	学芸員の調査研究報告。 左記の四編を収録。
千木良芳範、沖縄島ヤンバル地域におけるU字型側溝 への小動物の落下について（I） 与那嶺一子、沖縄の織機 津波古 聰、仏像彫刻 高良 松一、琉球ガラス工芸の文化（II）				
総合調査報告書 VII 浜比嘉島	不定期	800	B 5 (58)	浜比嘉島において実施された総合調査の報告書。左記の四編を収録。
当真 嗣一、浜比嘉島小史 金武 正紀、浜比嘉島の遺跡 千木良芳範、浜比嘉島の造綱性のクモ類について 大城 学、浜比嘉島の祭場と儀礼				
中学生のための学習ノート	不定期		B 5 (55)	博物館利用のためのワークブック。詳細は32頁を参照。
ポスター	定 期	1,000	B 全	次年度の当館行事案内
リーフレット	不定期	3,000	A 4 三折	当館の展示等を紹介
アンデス文明	不定期		A 4 (243)	同名の特別展を紹介する図録
インドネシアの更紗展	不定期	400	A 4 (283)	同名の特別展を紹介する図録
博物館だより	定 期	1,000	B 5 (6)	当館の行事等を紹介する公報紙

VIII その他の活動

1 資料貸出

① 考古：荻堂式土器 2点

期間：平成元年4月1日～平成2年3月31日

主催：国立歴史民俗博物館

名称：日本のあけぼの

会場：国立歴史民俗博物館

② 美術工芸：金城次郎作「陶器」 28点

期間：平成元年4月20日～4月22日

主催：国際ロータリー第258地区年次大会実行委員会

名称：沖縄の染織物と陶器展

会場：沖縄コンベンションセンター

③ 美術工芸：絵画 2点

期間：平成元年5月1日～5月14日

主催：ギャラリーみやぎ

名称：五人展

会場：ギャラリーみやぎ

④ 歴史：旧円覚寺殿前鐘 1口

期間：平成元年7月20日～9月30日

主催：山口県立美術館

名称：大内文化の遺宝展

会場：山口県立美術館

⑤ 考古・美術工芸：市来式土器他 16点

期間：平成元年10月19日～12月7日

主催：蒲郡市博物館

名称：沖縄・浦添の文化財

会場：蒲郡市博物館

⑥ 美術工芸：歓会門石獅子 1点

期間：平成元年11月7日～12月4日

沖縄県教育委員会文化課

目的：復元の参考のため

⑦ 美術工芸：勝公彦妙造琉球紙 132点

期間：平成元年12月12日～平成2年2月5日

主催：真鶴町教育委員会

名称：手漉和紙“芭蕉紙”記念展

会場：真鶴町民センター

⑧ 美術工芸：具志堅聖児作絵画 13点

期間：平成2年3月2日～3月25日

主催：那覇市文化振興課

名称：具志堅聖児日本画展

会場：那覇市民ギャラリー

2 燻蒸処理

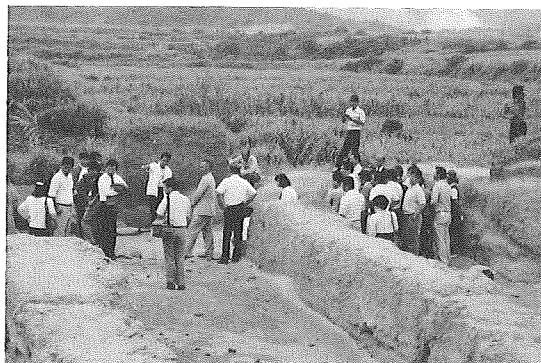
当博物館では資料保存のため、例年燻蒸を行っている。平成元年度は、6月26日(月)から7月1日(土)まで、展示室も含めた大がかりな燻蒸を実施した。従来行なっていた1階収蔵庫・地下収蔵庫・漆器収蔵庫の他に、各展示室と首里城正殿模型・扁額をメチルプロマイドによって燻蒸し、その他事務室、講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行なった。毎年行われている展示替えは、展示室が燻蒸されることから、事前に行われた。

3 沖縄県博物館協会

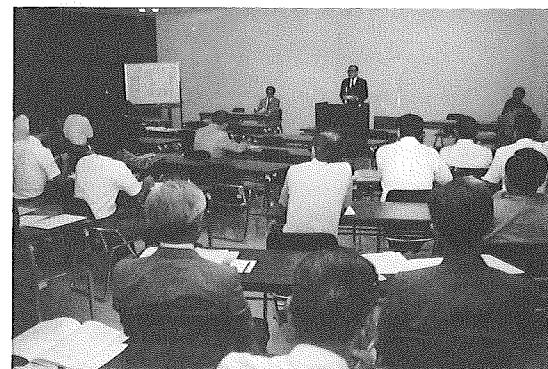
平成元年度の沖縄県博物館協会の総会並びに研修会は、6月2日(金)、沖縄県立博物館にて開催された。石川市歴史民俗資料館の12人を筆頭に、29の館園・個人会員の参加があり、参加者数は93人であった。総会では、平成元年度事業、予算案、役員改選、次期総会開催地等について審議決定された。午後からの研修会では、沖縄県工芸指導所の金城純子さんによる「沖縄の染について」、同じく工芸指導所の川前和香子さんによる「沖縄の織について」と題する講演をいただきました。講演終了後、研修会の舞台を南風原町の沖縄県工芸指導所に移し、工芸指導の実際について見学しました。

秋の研修会は10月12日(木)～13日(金)の日程で、奄美の名瀬市立歴史民俗資料館において開催されました。初の県外での研修会ということであったが、午前9時の受付開始とともに、多くの方がつめかけ、名瀬市立歴史民俗資料館、笠利町立歴史民俗資料館、伊仙町立歴史民俗資料館に、一般からの参加者も加わり奄美からは22名の参加がありました。また沖縄からの参加は、19館園に3名の個人会員を加え、35名の参加がありました。

研修会では鈴木重豊さんの「奄美の昆虫相にみる自然」、山下文武さんの「奄美の歴史」と題した2題の講演をいただき、午後からは「地域博物館の現状と課題」をテーマにした討論会が実施されました。



奄美大会（笠利町喜子川遺跡）



奄美大会（名瀬市立歴史民俗資料館）

4 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会が「博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかることを目的とする」との趣旨で発足してから今年度で10年目になる。

発足当初30名にも満たなかった会員が現在では260余名を突破し、会員の活動もより活発化してきた。とくに今年度は、結成10周年記念として「わたしのコレクション展」を博物館との共催で行うなど以下に述べるような多くの事業を実施してきた。

1、事業

①自然観察会（6月10日～11日）

1泊2日の日程で北部の自然と文化財巡りを実施した。参加者：40名

②展示室解説会（7月8日）

当真嗣一氏を講師に歴史展示室の解説会を実施した。参加者：28名

③県外研修旅行（9月15日～18日）

鹿児島県下の展示施設と文化財の視察研修を実施した。参加者：34名

④離島めぐり（10月28日～29日）

座間味島・阿嘉島・慶留間島へ渡り視察研修を実施した。参加者：25名

⑤首里城周辺史跡めぐり（11月18日）

宮里朝光氏を講師に首里城周辺の史跡めぐりを実施した。参加者：57名

⑥友の会10周年記念事業（1990年1月5日～13日）

9日間の日程で「わたしのコレクション展」を実施した。

⑦「大アンデス文明展」開催時にはボランティア活動を活発にし、館事業に大きく貢献した。

⑧「大アンデス文明展」に伴うミュージアム・ショップの開設（1月22～2月24日）

⑨「大アンデス文明展」の期間中に特別演奏会と特別講演会を実施した。

シルビオ・モレーノ氏を招いて「アンデスのフォルクローレ」 2回

アルベルト城間氏を招いて「魅惑のラテン音楽」 2回

高野潤氏 「アンデスを撮る」 特別講演会 2月20日

⑩会員発表会（3月17日）参加者：47名

第2回目の会員発表会である。5人の会員が発表した。

「52年目の帰郷」 大城福清氏

「人間の味・お茶の味」 渡嘉敷美恵子氏

「ある人の人生観について」 宮城盛持氏

「琉球の武器・武具」 与儀達憲氏

「元家に嫁いで」 伊波邦子氏

2、会員への情報提供

- 博物館事業及び催しものの案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

3、博物館への援助活動

- 図書の寄贈（20万円相当分）
- 資料運搬車の寄贈（2,045,080円）「大アンデス文明展」収益金

4、印刷物発行

- 友の会だより『赤い瓦』の発行
- わたしのコレクション展 図録の発行
- 会誌『博友』の発行
- 販売印刷物の出版
 - 教育普及書『冊封使』
 - 『中学生のための博物館学習ノート』
 - インドネシアの更紗展記念のテレホンカード発行

5、その他

- 懇親会（1989年5月22日） 参加者：48名
- 新年会（1990年1月13日） 参加者：90名
- 「大アンデス文明展」慰労会 博物館との開催（1990年2月24日）



県外研修旅行（鹿児島県、琉球館跡にて）

IX　日　誌　抄（平成元年4月1日～平成2年3月31日）

- 4月1日 人事異動
- 11日 会計検査院技術参事官・堀越一彦氏来館
 - 18日 税務大学校長・大田幸維氏来館
 - 20日 第1回文化課・博物館行政連絡会議：文化課
 - 24日 教育施策推進委員会（新館）
 - 28日 福岡法務局長・中田耕三氏来館
- 5月16日 ハワイ県人連合会副会長外間健氏来館
- 17日 国家公安委員会委員坂本朝一氏来館
 - 18日 新館建設要請教育長決議
 - 19日 永福寺の鐘受鐘式（都ホテル）
 - 20日 リー夫妻（永福寺の鐘）来館
 - 23日 自治省財政局調整室長嶋津昭氏来館
- 6月7日 日本学術振興会会长沢田敏男氏来館
- 15日 天野ハル紺綬褒章伝達式（教育長室）
 - 20日 ハワイ県人連合会スタディツアー来館
- 7月25日 第2回文化課博物館行政連絡会議：当館
- 8月8日 文部省初任者研修一行429人
- 10日 石川県議会議長山田宗一氏来館
 - 17日 第3回文化課・博物館行政連絡会議：文化課
- 9月6日 アセアン青年研修生一行18名
- 農水省家畜衛生試験場外国人研修生一行18名
 - 8日 沖縄県立博物館協議会：当館
 - 9日 杉野女子大学博物館学習一行8名
(引率：加藤有次教授)
- 10月11日 中華民国琉球友好訪問団一行7名
- 17日 北海道教育委員会教育委員長細谷猛氏来館
 - 30日 ホノルル美術館ブランドン持永氏来館
- 11月14日 県教育委員（5名）視察
- 22日 第4回文化課・博物館行政連絡会議：当館
- 1月12日 ベルギー大使バロン・ノースム氏来館
- 2月1日 徳川美術館長徳川義宣氏来館
- 15日 栃木県子ども総合博物館長野ハツエ氏来館
 - 23日 開発庁振興局長水谷氏来館
- 3月24日 開発庁長官砂田重民氏来館

X 関係法規抄録

○博物館法 (昭和26・12・¹)
(法律第285号)

〔最近改正〕 昭和58・12・2・法律第78号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法(昭和24年法律第207号)の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関(社会教育法による公民館及び図書館法(昭和25年法律第118号)による図書館を除く。)のうち、地方公共団体、民法(明治29年法律第89号)第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
- 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を

援助すること。

- 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法(昭和25年法律第214号)の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
- 2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条第1項の規定により大学に入学するとのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

(博物館資料の輸送運賃及び料金)

第9条 博物館資料の日本国有鉄道による輸送に関する運賃及び料金については、国有鉄道運賃法（昭和23年法律第112号）第8条の規定の適用があるものとする。

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
 - 2 名称
 - 3 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
 - 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
 - 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、

又は同条第2項に規定する添附書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事實を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当っては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えなければならない。

3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の義務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。
(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者

の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の公布に關しつ必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- 1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。
- 2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- 3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- 4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣

が、その他の施設にあっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第9条及び第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

- 2 第6条に規定する者には、旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)、旧高等学校令又は旧青年学校令(昭和14年勅令第254号)の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年5月15日)
(条例第24号)

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) 第30条、図書館法(昭和25年法律第118号) 第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号) 第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日)
(教育委員会規則第2号)

最終改正 平成元年3月17日教育委員会規則第2号

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関する事。

(2) 公印の管守に関する事。

(3) 施設設備の管理に関する事。

- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号）

最終改正 平成元年3月31日教育委員会規則第4号

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ず

ることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文 書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）

(3) 慽靈の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならぬ。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報 告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補 則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則（平成元年3月31日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

第3号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書	平成 年 月 日
殿	沖縄県立博物館長
平成 年 月 日	付け申請のあつた博物館資料の寄託について、 では、下記により受託します。
1 種別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
7 備考	

第4号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申請者氏名 電話
下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。	
記	
1 使用者	団体名 及び 代表者名 ㊞ 職業()
2 使用目的	住所 手紙 電話
3 使用する施設：1 ホール	2 臨時陳列室
4 使用する日時及び期間	自：平成 年 月 日 午 時 分 () 至：平成 年 月 日 午 時 分 日間
5 予定参加人員	人
6 その他必要な資料（プログラム等）	
7 許可	書
月 年 月 日付申請の()	使用の件、申請どおり許可します。
平成 年 月 日	沖縄県立博物館長 ㊞

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書 平成年月日	沖縄県立博物館長殿	申込者 住所 氏名	種別 作者名 作品名 製作年月日 附属品 資料の所在地 時価見積額 寄贈の理由
---------------------	-----------	-----------------	--

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

受諾書	上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。
平成年月日	平成年月日
沖縄県立博物館長	（印）

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申込書 平成年月日	沖縄県立博物館長殿	申込者 住所 氏名	私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。
			記
1 種別 2 作者名 3 作品名 4 製作年月日 5 附属品 6 資料の所在地 7 時価見積額 8 寄贈の理由	1 種別 2 作者名 3 作品名 4 製作年月日 5 附属品 6 資料の所在地 7 寄託期間 8	平成年月日 平成年月日 平成年月日 平成年月日 平成年月日 平成年月日 平成年月日 （印）	

○沖縄県立博物館協議会規則(昭和47年10月2日)
(教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日
条例第37号)

最終改正 昭和62年4月1日条例第24号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の徴収)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認められる者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和62年4月1日条例第24号抄)

この条例は、昭和62年4月1日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料) (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.23

平成 2 年 7 月 20 日 発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 沖縄県那覇市首里大中町 1 の 1

〒 903 TEL : 0988-84-2243

86-4353

印 刷 文進印刷株式会社

住 所 沖縄市那覇市上間 567

TEL : 0988-55-2323(代)